



学園の使命

学校法人東京電機大学は

大学、高等学校、中学校の経営を通し、

110年を超えて培ってきた歴史と伝統をもとに、

次世代を担う技術者を中核とした

人材を育成することにより、

社会に貢献することを使命としています。

その責任は、在学している学生・生徒、

ご父母、卒業生、産業界、社会全体、

そして未来に負います。

Annual Report 2021

学校法人東京電機大学

| 2020年度 学園活動の概況

TDU

学校法人東京電機大学 総務部 企画広報担当

〒120-8551 東京都足立区千住旭町5番 Tel.03-5284-5125 Fax.03-5284-5180 E-mail: keiei@jim.dendai.ac.jp

<https://www.dendai.ac.jp/>

輝き続ける学園の実現に向けて



学校法人東京電機大学 理事長 **石塚 昌昭**

本学園は2014年度から10年間を目途とする中長期計画を策定、2019年度からの後半5年に向けた改訂を行いつつ諸事業を推進しています。時代を超えて輝き続ける東京電機大学の実現に向けて、本学にしかできない特色ある取り組みの推進を目指すもので、8年目を迎えた本年は、2024年度以降の本学の中期的な計画策定に着手する年になります。

学生・生徒、教職員に対し教育・研究の環境を十分に提供することが、理事長としての重要な任務であると私は考えています。優れた教育・研究業務の運営には健全な財政が欠かせません。少子高齢化が進行する中、全教職員と学園の理念や目標を共有しながら、中長期計画を着実に進め、財政の健全化を維持し、学園の使命を果たしていきたいと思っております。

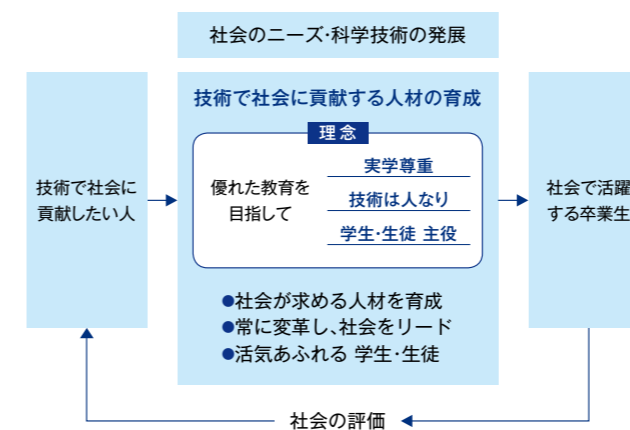
2019年に発生した新型コロナウイルス感染症の影響により、学園を取り巻く環境は大きく変化しています。しかし、建学の精神「実学尊重」と、教育・研究理念「技術は人なり」に基づき推進していく「学園の基本運営」、創立当初からの技術者教育への熱い思いと学生・生徒主役、教育最優先の精神は、これまでも、そしてこれからも変わりません。教育・研究・社会貢献での特色ある取り組みの推進を行うことによって、大学の目標でもある「理工系大学のトップランナーの一員として評価される」ことを目指します。

昨年は、コロナ禍により、学生・生徒に通常の授業や学校生活を提供できない状況が続きましたが、十分な感染対策を行い、半数登校による対面授業を実施するなど、コロナの中で学修環境を取り戻しつつあります。今後も、学生・

生徒に心配なく勉学に励んでもらえるよう、学習面、経済面での支援を続けるとともに、全ての構成員の安全安心を最優先として、スピーディーな対応・決断・行動を心がけ、学園運営を継続したいと思います。

本学は今年で創立114年を迎えます。今日卒業生は22万人を超え、日本にとどまらず世界の産業界をはじめ各界における卒業生の活躍が、本学の社会的評価に表れていることを大変誇りに感じます。社会環境の変化に適応しながらもこれまでの良き伝統と精神を生かし、次の100年に責任をもつ大学として、「技術で社会に貢献できる人材の育成」に努めてまいります。

学園のスキーム図



CONTENTS

- 01 **理事長メッセージ**
「輝き続ける学園の実現に向けて」
- 03 **TDUのスピリットとミッション**
「100年を超える歴史と伝統」
- 05 **TDU特集**
コロナ禍での活動(2020年度)／
様々な支援活動／感染予防の対策
- 09 **基本情報・経営体制**
- 11 **学長・学校長メッセージ**
「予測困難な未来に貢献する
確かな思考力と行動力を備えた技術者の育成」
- 13 **事業報告** 2020年度の取り組みと成果
- 19 **財務情報**
- 25 **TDU Edge** 特色ある取り組み
- 36 **データ集**

TDUのスピリットとミッション

100年を超える歴史と伝統

TDUの歴史

History 1 創立から大学開設まで

電機学校を東京・神田に創立

創立者廣田精一・扇本眞吉
「生徒第一主義、教育最優先主義、実学尊重」を基本方針とする。



(左上)電機学校第一回卒業式 (右上)最初の自己所有校舎
(左下)神田駅まで続いた下校生徒の波 (右下)実演室

1928



丹羽保次郎博士が写真伝送(現在のファックス)に成功。
本学実演室で、高柳健次郎氏による日本初のテレビ公開実験。

東京電機大学開設

電機学校創設時より掲げられた3つの主義「生徒第一主義」「教育最優先主義」「実学尊重」の精神を引き継ぎつつ、1949(昭和24)年に設立された東京電機大学においては、中でも「実学尊重」を建学の精神とし、技術を通して社会に貢献できる人材の育成を目指し、現在まで一貫して実学を重視した教育を実践している。
1949(昭和24)年の東京電機大学設立時において、初代学長の丹羽保次郎は、「立派な技術者になるには、人として立派でなければならない」という考えに基づいた「技術は人なり」を東京電機大学の教育・研究理念として掲げた。この理念は東京電機大学中学校・東京電機大学高等学校の校訓「人間らしく生きる」としても受け継がれている。

1949



(上)大学発足時の教授陣
(下)本館(5階増築)

1907

1907

1928

1949

1958

2007

2023

技術で社会に貢献する
人材の育成を目指して

1914 科学技術誌「オーム」発刊(現在のオーム社に発展)。
1924 ラジオ実験放送を開始(NHKは1925年実験放送を開始)。
1948 電機学園高等学校開学(現・東京電機大学高等学校)。
1950 東京・秋葉原に秋葉原電気街誕生。本学が育ての親と言われる。
1952 工学部第二部設置(夜間)。

大学院開設

(日本初の夜間大学院)
日本で初めて夜間大学院を開設した。現在も多くの専攻が昼夜開講し、働きながら学びたい学生や社会人に学びの場を提供。



大学院第1回入学式

1958

創立者

廣田 精一
(1871~1931)



広島県生まれ。1896年東京帝国大学工科大学卒業。高田商会に在籍のままドイツシーメンス・ハルスケ電気会社入社、その後欧米諸国を視察して帰国。1907年扇本眞吉とともに私立電機学校設立、1914年オーム誌創刊、1916年組織を財団法人に改め、総務理事に就任。1921年現神戸大学工学部を創立。電気自動車の開発にも力を注ぎ、エンジンにも面会した。

扇本 眞吉
(1875~1942)



岐阜県生まれ。1902年東京帝国大学工科大学卒業。ドイツシーメンス・ハルスケ電気会社、深川電機株式会社、江ノ島電気鉄道株式会社等に奉職。1907年廣田精一とともに私立電機学校を設立し、初代校長として尽力。1916年組織を財団法人に改め財務理事に就任。専心その任にあたる。

建学の精神「実学尊重」

「電機学校設立趣意書」に「工業は學術の応用が非常に重要だが、本学は学問としての技術の奥義を研究するのではなく、技術を通して社会に貢献できる人材の育成を目指すために実物説明や実地演習を行う」ようにとあります。独創的な実演室や教育用の実験装置を自作する等の充実にも努めました。「実学尊重」は建学の精神として、本学の礎となっています。

History 2 大学の発展と躍進

初代学長

丹羽 保次郎 (1893~1975)

三重県生まれ。1916年東京帝国大学工科大学電気工学科卒業。通信省電気試験所、日本電気株式会社に勤務。1924年に欧米を視察し帰国後、写真電送の研究に取り組み有線写真電送装置を発明した。日本初の写真電送装置(ファクシミリ)として、昭和天皇即位式のニュース写真の電送に用いられ優れた成績を上げ、世界で広く普及。さらに無線写真電送の研究に着手。1929年、東京・伊東間で日本初の長距離無線写真電送の実験に成功。1949年東京電機大学の初代学長に就任。1955年(社)テレビジョン学会初代会長。1957年米国無線学会(米国電気電子学会の前身)副会長、同東京支部長。1959年に文化勲章、1971年に勲一等瑞宝章を授与される。日本の十大発明家に数えられる。



1990 千葉ニュータウンキャンパス開設。
1992 東京小金井キャンパスを開設し高等学校移転。
1996 東京電機大学中学校開校。
2000 文部科学省・経済産業省による東京電機大学TLO(技術移転機関)承認。
2001 情報環境学部を千葉ニュータウンキャンパスに開設。
2006 大学院先端科学技術研究科を開設。

学園創立100周年

学園の中長期計画の達成 (社会環境の変化に適切に働き続ける東京電機大学の実現)

2007



学園創立100周年

学園創立100周年記念式典。2007(平成19)年9月11日。

未来科学部開設、全学的改編を実施。

2010 (公財)大学基準協会による大学基準適合認定。

1962 第2代学長阪本捷房博士が日本ME学会(現・日本生体医工学会)を創立。

1970 パソコン創成期に先導的役割を果たす。

1977 理工学部開設(埼玉鳩山キャンパス)。

教育・研究理念「技術は人なり」

「私は技術も文学や美術と同じく、やはり人が根幹をなすものであることを申し述べたいのであります。すなわち「技術は人なり」というのです。立派な技術には立派な人を要するのです。よき技術者は人としても立派でなければならないのです。ですから技術者になる前に「人」にならなければなりません。技術者は常に人格の陶冶を必要とするのです」
「技術を構成する要素には、それぞれの自然法則が応用されるのでありますが、これを構成して大きな総合技術を完成するには、技術者の構想を多分に必要とするのであります」
「専門学科学科の精選充実を図るとともに、実験及び実習を重視する。特に従来の学校教育の習得偏重を排し、技術者として実地に測する物の製作技術を修得し、且つ勤労の精神を涵養する目的を以て已に実習工場を設けてあるが、新制大学としても益々之を拡充する」(大学設置認可申請書より)
※「内」は本学園の年史等より抜粋(典拠記載のあるものを除く)



2017 学園創立110周年 東京千住キャンパス5号館開設

システムデザイン工学部開設、大学基準適合認定。

2014 学園の中長期計画「TDU Vision 2023」の策定

2012 創立の地神田から北千住へ移転

学園創立100周年記念事業として2008年には東京千住キャンパスの創設が決定。2012年、北千住に移転した。これにより、東京神田キャンパスから東京千住キャンパスに104年の歴史を引き継ぐこととなった。

東京千住キャンパス開設

東京千住キャンパスは、東日本大震災を経ながらも、2012年4月に開設した。世界的な建築家の横文彦氏の設計による、最新の環境がそろう学生主役のスマートキャンパス。



TDU特集

コロナ禍での活動 (2020年度)

2020 3~4月



(上)3月16日、修了生・卒業生へのメッセージをライブ配信
(下)4月2日、新入生へのメッセージをライブ配信



各キャンパスの入構を原則禁止 テレワークの推進

3月27日、東京都及び神奈川、千葉、埼玉、山梨各県から外出自粛の要請を受け、各キャンパスの入構を原則禁止とし、教職員の在宅・交代勤務を開始しました。

新型コロナウイルス感染症対策会議、同WG設置

2020年3月25日、新型コロナウイルス感染症に関わる全ての議題について、大学全体を俯瞰して教職協働で対処していくため、「新型コロナウイルス感染症対策会議」および「同WG」を立ち上げました。前期授業の学事日程を5月7日から開始に変更し、授業はオンラインで開催することを決定しました。会議は幹部会議とせず、多くの教職員が参加。オンライン授業への変更に対応すべく、部署間の連携を強めました。

卒業式・入学式にて メッセージライブ配信

3月16日に両国国技館にて予定していた「令和元年度大学院修了式・大学卒業式」及び「学位記授与」は開催中止。代わりに、本学理事長、学長、校友会理事長から修了生・卒業生へのメッセージを、「Zoom」にてライブ配信しました。また、4月2日に両国国技館で予定していた「令和2年度入学式」も中止。修了式・卒業式同様、理事長、学長から新入生へのメッセージをライブ配信しました。

2020 5~6月

オンライン授業開始

5月7日、オンライン授業をスタート。教員は、学生の生活習慣を崩さないよう、授業はオンデマンド型ではなく、なるべく双方向オンライン型とし、時間割通りの授業としました。また、実験・実習系の科目は、実験などの様子をビデオ撮影し配信をしました。本学は、2020年12月に、日本で初めて大学組織として「Zoom」社と包括ライセンス契約を結んでいました。学生全員にアカウントが付与され、学生は無償で利用することができ、オンライン授業で活用されています。

実験・実習科目の対面授業開始

6月29日から実験・実習科目の一部を分散登校による対面で実施、後期授業でも継続されました。

中学校・高等学校の分散登校・短縮・時差登校

中学校・高等学校では、5月18日よりオンライン授業を開始。6月からの分散登校を経て、6月29日に一斉登校が始まりました。登校時刻を1時間遅らせ、50分授業を10分間短縮しての時間割としました。



射場本忠彦学長「東京電機大学で学ぶ」授業の画面



一部の実験・実習科目を3密を避け対面で実施



分散登校中の授業の様子

2020 9~11月

オンライン学園祭開催



(左)オンライン学園祭配信の様子
(右上)ダンス部のパフォーマンス映像
(右下)ヒューマノイド研究会の障害物競争

10月31日と11月1日の2日間「東京電機大学オンライン学園祭」を開催。例年、学園祭は東京千住キャンパス、埼玉鳩山キャンパス、それぞれで開催していますが、今回は合同で史上初のオンライン学園祭に挑戦しました。地元の美味しいお店を紹介するロケ企画や、お笑い芸人によるお笑いライブ配信、ゲストに声優を迎えたトークショー、千住vs鳩山で繰り広げるeスポーツ大会の他、学生団体の紹介のライブ配信、学生団体の活動や学科・学系・研究室紹介のコンテンツなどをオンデマンド配信で多数公開しました。オンライン学園祭のYouTube視聴回数は2日間で約16,500回となりました。

中学校・高等学校 無観客体育祭

11月13日(中学校)と14日(高等学校)に体育祭を実施。参加者は生徒のみとし、「無観客」で開催しました。



着座記録アプリ「リレキログ」を導入

教室での着座の状況を記録するアプリ「リレキログ」を、工学部情報通信工学科の坂本直志教授が開発。新型コロナウイルス感染症対策の一つとして、11月16日より東京千住キャンパスにて導入を開始しました。授業で登校する学生に着座履歴の記録を呼びかけ、万一人の中で罹患者がいた時に濃厚接触者を特定するなど、感染拡大防止のツールとして機能します。

2021 3月

令和2年度 大学院修了式・大学卒業式を挙行

3月17日、日本武道館にて「令和2年度大学院修了式・大学卒業式」を挙行し、大学院博士課程10名、大学院修士課程434名、学部生1,990名が新たな門出を迎えました。式典参加は修了生、卒業生のみ限定。式典の様子はインターネットでライブ配信しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止を最優先とする、例年とは違う修了式・卒業式となりました。



TDU特集

様々な支援活動

■ コロナ禍に伴う 学生・生徒への支援

新型コロナウイルス感染症に係る影響に鑑み、学生・生徒の皆様が少しでも安心して学業を続けられるよう、令和2年度の学生生徒等納付金(入学金を除く)から、大学院、大学は令和2年度前期、高等学校、中学校は令和2年度第1学期の学生生徒等納付金の約10%相当を減額。総額6億円規模の支援を実施しました。

学生生徒等納付金の減免額

大学院	50,000円	システムデザイン工学部	74,000円	情報環境学部	40,000円
大学院(社会人コース)	33,000円	工学部	74,000円	工学部第二部	16,000円
未来科学部	74,000円	理工学部	74,000円	中学校・高等学校	28,000円

■ 家計が急変した学生等への支援

新型コロナウイルス感染症に係る影響を受けて家計が急変した学生・生徒に対し、経済的困窮により休学・退学等、学業の継続を諦めてしまうことがないよう、「学生サポート給付奨学金」をはじめとする学内独自奨学金について特別な配慮(給付条件緩和、給付規模(人数)増)を行いました。

■ 卒業生からの支援

学生・生徒の支援のため「学校法人東京電機大学サポート募金」への呼びかけを積極的に行い、校友会地方支部・電機会をはじめ卒業生の皆様から温かいご支援をいただきました。

■ 株式会社ソディック様より フェイスシールド1万3千セット寄贈

株式会社ソディック(代表取締役社長 古川健一様)より、金属3Dプリンタによる金型技術を活用した、新型コロナウイルス感染症予防に有用な本格フェイスシールド1万3千セットを寄贈いただきました。

株式会社ソディックと本学園はソディックの創業者で前名誉会長 故古川利彦様が本学園の卒業生であり、本学の名誉博士でもある関係から、教育・研究に常日頃からご支援をいただいております。



石塚理事長(左)と古川社長(右)

寄贈されたフェイスシールド

■ 国際学会・留学支援

オンライン中心となった国際学会や留学へ参加希望の学生や教員に対して、以下の支援を行いました。

学生への支援

海外学会参加

- オンライン学会登録費の助成(最大7万5千円/件)

海外学会参加対応英語によるオンラインレッスン

- 1研究室4名×35研究室対象
- オンラインによるプレゼンテーション発表練習の実施

海外短期研修(協定校等)

- オンラインプログラムでの実施 参加費無料

教員への支援

国際学会論文発表

- オンライン学会登録費の助成(最大5万円/件)

海外(長期)留学

- オンライン受講により実施
(本学独自海外研修制度:東京電機大学神山治貴海外留学派遣奨学生)

その他

- オンラインによる外国人留学生への再入国時の手続支援

■ 受験生、高校生へオンラインで情報発信!

オープンキャンパス等の来場型学生募集活動に代わり、ICTを活用した情報発信と情報交換を実施しました。

YouTubeチャンネルの開設

高校生・保護者の皆様に「いつでも・どこでも簡単に」本学を知ってもらえるよう、YouTubeチャンネル「電大 YouTube キャンパス開設」を開設し動画を配信しました。動画は、大学説明、学科・学系紹介、入試説明など合計約70本を公開しました。

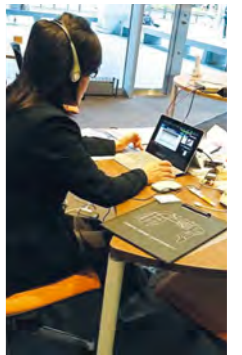


高校にパワーポイント資料での情報提供

高校教員を対象とした入試説明会を例年ご案内している高校宛(約1,300校)に、従来の来場型説明会に替えて、資料提供と個別相談(Zoom・電話・メール)の案内を送付しました。

オンライン個別相談会

Zoom・電話・メールによる個別相談会を実施。受験生・高校生・保護者・高校教員を対象として、個別相談に対応しました。(1回45分)



Zoomによる個別相談の様子

入試Q&A特設ページの開設

受験生・高校生の皆様からよくいただく質問とその回答をまとめた入試Q&A特設ページを公開しました。

■ 中学校・高等学校入試関連

オンライン型の説明会・相談会のほか、人数制限等を行い来場型でも実施しました。

来校型学校説明会

受験を検討中の方に向けた来校型学校説明会を10月3日(高等学校)、4日(中学校)に開催。各々100組(1組2名以内)に限定で実施しました。



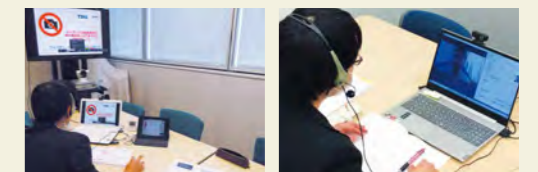
中学校入試体験会

1月6日、中学受験を検討中の方向けに第4回学校説明会を開催し、同時に小学校6年生対象に入試体験会を実施。各教室に分かれ、約250名の小学6年生が試験を受け、その間、保護者は学校説明会に参加しました。

■ オンラインによる就職支援

就職支援に関するオンライン相談を導入。各種デジタルツールを利用し、エントリーシート添削、模擬面接、企業紹介など、就職活動をバックアップしました。特に模擬面接は、コロナ禍で企業でもオンライン面接が主流となり、実践的な面接練習として効果をあげました。

その他にも、進路ガイダンス、インターンシップガイダンス、企業ガイダンス等を計188回開催し、延べ20,000名の学生が参加しました。



各種ガイダンスを計188回開催 オンライン相談では面接の練習も

PICK UP 感染予防の対策

AIサーマルカメラ、アルコール消毒液、パーテーション設置

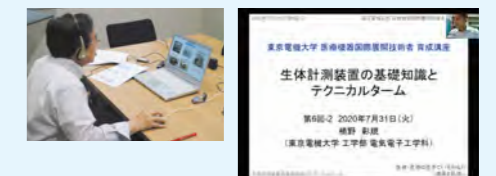


東京千住キャンパス



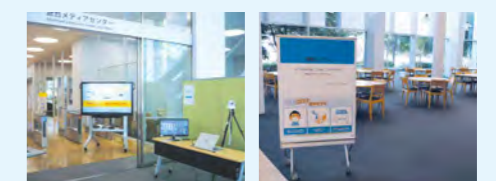
埼玉鳩山キャンパス

公開講座はオンラインで開講



(左)エンジニア向けリカレント講座「電大でマナブ」オンライン開講 (右)「第4回医療機器国際展開技術者育成講座」オンライン開講

図書館エリアは事前予約制で利用可能



基本情報

学校法人東京電機大学の概要

2021(令和3)年5月現在

創立：1907(明治40)年9月11日
 理事長：石塚 昌昭
 監査法人：EY新日本有限責任監査法人
 教職員数：595名(教員数407名、職員数188名)
 設置学校：東京電機大学

- 大学院**
 - 先端科学技術研究科(博士課程(後期))
 - 工学研究科(修士課程)
 - 理工学研究科(修士課程)
 - 情報環境学研究科(修士課程)
 - 未来科学研究科(修士課程)
 - システムデザイン工学研究科(修士課程)
- 工学部**
 - 電気電子工学科
 - 電子システム工学科
 - 応用化学科
 - 機械工学科
 - 先端機械工学科
 - 情報通信工学科
- 工学部第二部**
 - 電気電子工学科
 - 機械工学科
 - 情報通信工学科
- 未来科学部**
 - 建築学科
 - 情報メディア学科
 - ロボット・メカトロニクス学科
- システムデザイン工学部**
 - 情報システム工学科
 - デザイン工学科
- 理工学部**
 - 理工学系
 - 理学系
 - 生命科学系
 - 情報システムデザイン学系
 - 機械工学系
 - 電子工学系
 - 建築・都市環境学系

キャンパス所在地：

東京千住キャンパス 東京都足立区千住旭町5番

- 法人・大学本部
- 大学院先端科学技術研究科
- 大学院工学研究科
- 大学院情報環境学研究科
- 大学院未来科学研究科
- 大学院システムデザイン工学研究科
- 工学部
- 工学部第二部
- 未来科学部
- システムデザイン工学部
- 総合研究所
- 出版局



埼玉鳩山キャンパス 埼玉県比企郡鳩山町石坂

- 大学院先端科学技術研究科
- 大学院理工学研究科
- 理工学部
- 総合研究所



千葉ニュータウンキャンパス 千葉県印西市武西学園台2-1200

千葉ニュータウンキャンパス



東京小金井キャンパス 東京都小金井市梶野町4-8-1

東京小金井キャンパス

- 中学校・高等学校



東京電機大学高等学校

全日制課程 普通科

東京電機大学中学校

研究推進社会連携センター：

総合研究所 サイバー・セキュリティ研究所/レジリエントスマートシティ研究所/
 医療・福祉機器開発・普及支援センター/耐震安全研究センター/
 知能創発研究所

ものづくりセンター

インスティテューショナル リサーチ センター

総合メディアセンター

東京電機大学出版局

経営体制

ガバナンス体制

●理事会は現在、理事14名及び監事2名で構成し、経営、管理運営及び業務執行に関する重要事項を審議するため、8月を除く毎月1回開催し、また必要に応じ臨時に開催しています。

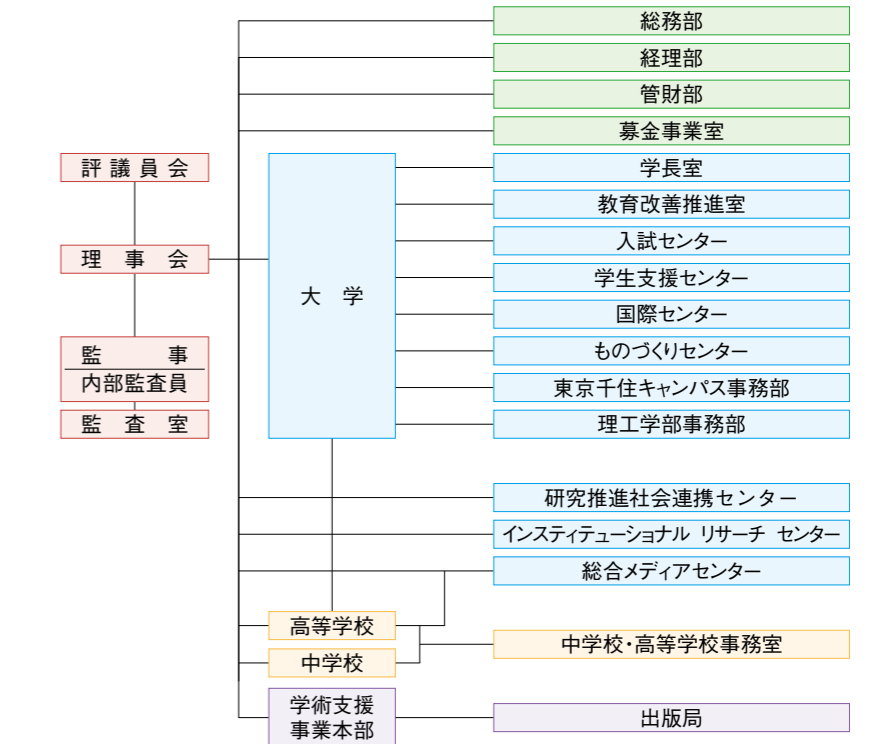
●常勤理事会は理事長、学長、常務理事及び本法人の身分を持つ理事で構成し、意思決定の迅速化、権限と責任の明確化等を図るため、理事会付議事項の審議及び理事会の委任業務について決定し、毎週1回を原則に開催しています。また必要に応じ、監事、卒業生理事等の出席を要請しています。

●常務理事、担当理事を配置し、学園運営にあたっています。

●監事は、2名のうち1名はこれまで本法人の役員または職員でなかった者を選任。理事会に出席し、法人全般の業務や財産の状況を監査します。また、監事監査、会計士監査、内部監査の三様監査の体制をとっています。

●評議員会は学識者、卒業生、教職員など50名近くで構成し、予算と決算を含む学園経営の重要な事項の諮問や決定を行う機関として、年数回開催しています。

管理運営組織 (事務組織)
 (臨時組織は除く)



学校法人東京電機大学 理事・監事

理事

- 石塚 昌昭 理事長
- 射場本忠彦 学長
- 平栗 健二 統括副学長
- 吉田 俊哉 工学部長・工学部第二部長
- 平川 吉治 中学校・高等学校長
- 汐月 哲夫 未来科学部教授
- 佐藤 龍 総務部長
- 渡辺 貞綱 元一般社団法人東京電機大学校友会理事長
- 上西栄太郎 一般社団法人東京電機大学校友会理事長
- 平沼 大輔 平沼高明法律事務所弁護士
- 村上 和夫 株式会社オーム社代表取締役社長
- 櫻村 幸辰 元理工学部教授
- 工藤 智規 元文部科学省文部科学審議官
- 松尾 隆徳 前一般社団法人東京電機大学校友会理事長

監事

- 高 為重 元文部省大臣官房総務審議官
- 別府 明雄 元株式会社テレビ東京・元板橋区教育委員会教育委員長



予測困難な未来に貢献する 確かな思考力



東京電機大学 学長 射場本 忠彦

学長メッセージ

変化の時代、変わらぬ精神で 未来社会を担う、研究者・技術者を育成。

東京電機大学は創立以来113年となる歴史を重ね、高度な専門性を持つ研究者、技術者を多数輩出しており、理工学分野での社会貢献は多大であります。

今日、多様で複雑な社会情勢下において、安全で安心、豊かで利便な社会の形成を実現すべく、各種のビッグデータに支えられたAIやIoT技術の伸張が進んでいます。しかしAIは「知能部分の外部化」はできても「意識部分のデータ化」はできません。つまり「方向性を決める」「責任を取る」ことは、人間だけにできることです。従って、これからの社会においては、これまでも増して高い専門力が求められるだけでなく、「知恵と感性」をものづくりの土台に載せて「協創」していくことが重要となります。

ハードウェア面のみならず、ソフトウェア面、さらには社会の制度の見直しや、人間の心理、行動などを見据えた、幅広い視野の提案力と技術力が不可欠です。

大切なのは、何が正しいか、何をすべきかを、自分で考え、批判し、判断し、失敗を恐れずに行動することです。人の心を理解し「技術は人なり」の心を備えたより多くの学生・大学院生を社会に送り出すことにより、学園の使命「技術で社会に貢献する人材の育成」を実践していきたいと考えています。

学生には、問題意識を持った当事者として授業に出席し、教員の言葉に潜むフィロソフィーを汲み取ってほしいということをいろいろな場面で伝えています。さらに実験や実習の経験を積み重ね、自ら考える力を養ってほしいと思います。

アイデアや提案をとことん突き詰め、仲間との議論を重ね、解決策を導き出す学ぶプロセスの中で、学生一人ひとりが主体的に成長していくことを願っています。

本学で学ぶ学生が、自信と夢を持って学生生活に挑戦し続け、高度な技術の専門家、優れた研究者へと成長するよう、私たちは全力で東京電機大学人の育成に努めて参ります。

未だコロナ禍の終息は見えませんが、令和2年度修了式・卒業式並びに令和3年度入学式を無事日本武道館にて挙行することができました。人生の節目となる重要な行事を挙行できましたこと誠にうれしく思います。

また、令和2年度は、研究活動、実験・実習以外の授業については、ほぼオンラインとなりましたが、令和3年度は指定された週に1/2の分散登校を行うハイフレックス型の授業にて対面授業を実施しており、登校指定日には授業に出席することを原則としています。

授業の手法は変われども、大学の教育・研究の精神は変わらない、変えてはいけません。さまざまな場面においても、学生が自分で考える力を養えるように、そして、教職員を含めて皆が柔軟に対応していかなければいけないと思います。

そしてこの経験を10年後、100年後に引継ぎ、活かすことが重要です。安全・安心はもとより、予防保全や強靱性等に対する認識の醸成が、社会全体で継続的に受容されていくことを期待するとともに、本学の教育・研究においてもその責任を果たせるよう、取り組みを続けて参ります。

と行動力を備えた技術者の育成

学校長メッセージ

正解のない問いに挑戦し続けられる 確かな基礎力を養う。

巨人の肩の上に立つ、という言葉があります。科学者アイザック・ニュートンがその書簡の中で「私が彼方を見渡せたのは、巨人の肩の上に立っていたから」と述べているように、学問というのは先人の積み重ねた業績のうえに、さらに新たな発見を築き上げていくことです。そして、中学校・高等学校での学びとは、たとえなら自身の挑んでいる巨人の大きさに驚愕し、その肩に這い登ろうとすることではないでしょうか。

もちろん、中高での学びによって、その巨人のすべてを視野に入れることはとてもできません。もしかしたら、多くはその膝丈すら届かないのかもしれませんが、自分がどれだけ巨人の肩に近づけるかと挑むことが、これからの子どもたちに必要な「学び続ける姿勢」であると考えています。

中高での学びは、大学での研究への基盤となるものであり、知に対するリスペクトや好奇心を生みます。我々はそうした学び続ける子どもたちを育てるべく、日々の教育活動に取り組んでいます。その一環として、令和3年度からの中学校の新教育課程においては「探究」を教科として時間割に組み込み、課題設定や調査・研究の方法を学んでいます。

昨年度はコロナ禍の状況の中で手探りの一年間でした。令和2年度入学式の中止に始まり、文化祭や修学旅行といった主な学校行事のほとんどが実施できませんでした。生徒たちは我慢を強いられた一年間でしたが、その状況は、今でも終わりが見えてきません。令和3年度もこれまで同様にコロナ禍の学校運営が続きます。

こうした状況の中で、我々も生徒たちも、先の見えない不安というものが本当にあるのだということ、そして、何が起きてもおかしくないという現実が存在するのだということ、あらためて感じました。これからの子どもたちには、そうした厳しい現実を生き抜く力が重要となります。

中学校・高等学校の校訓である「人間らしく生きる」とは、自分の責任において生きる道を決めていくことです。先の

見えない時代を生きるために大切なのは、「なぜ自分はその道を選んだのか」という、判断に対する明確な根拠です。

物事を判断するための材料としての基礎知識、フェイクに惑わされずに正しい情報を得るためのリテラシー、自分の得た知識や情報をもとにして論理的に考える力、そして自分の導き出した答えを発信するためのコミュニケーション能力や表現力。中高での学習活動においては、これらの能力を結びつけ関連づけながら、未来に対する答えを探ります。

正解を選ぶことよりも、選んだ道が正解だと自信をもって言えること、それが東京電機大学中学校・高等学校の学びの先にある「人間らしく生きる」ことだと考えています。



東京電機大学中学校・高等学校 学校長 平川 吉治

事業報告

2020年度の取り組みと成果

輝き続ける強い学園を目指して

2020(令和2)年度、本学園は新型コロナウイルス感染症拡大への様々な対応を実施しつつ、「学園中長期計画(TDU Vision 2023)改訂版」及びその進捗状況を踏まえて策定した「2020(令和2)年度学校法人東京電機大学事業計画書」に基づき各事業を推進しました。

- | | |
|-----------------------|------------------|
| 1. 大学・大学院 | 5. その他、継続する諸課題 |
| 2. 中学校・高等学校 | 6. 推進のための点検評価 |
| 3. 財政健全化 | 7. 中長期計画の進捗・達成状況 |
| 4. ガバナンスの構築及び運営組織の見直し | |

「学校法人東京電機大学中長期計画 ～TDU Vision 2023～」(改訂版)

社会環境の変化に適応し輝き続ける東京電機大学の実現

(骨子)

- I. 大学:理工系大学のトップランナーの一員としての評価の確立
- II. 中学校・高等学校:教育のさらなる充実と財政基盤の安定化
- III. 財政健全化の推進
- IV. ガバナンス構築と運営組織の見直し
- V. 推進のための点検評価

▶ 2020(令和2)年度事業の概要 ◀

国連のSDGsでは、IoTやAIの活用等による超スマート社会(Society5.0)の実現が提唱され、情報関連技術者の育成と進化したものづくり教育、ものづくりをデザインできる主体的な人材育成への期待も高まっている。2020(令和2)年度は、新型コロナウイルス感染症拡大による不測の事態へのさまざまな対応を迫られた。

本学園においては、2018(平成30)年度に改訂した「学園中長期計画(TDU Vision 2023)改訂版」及びその進捗状況を踏まえて策定した「2020(令和2)年度学校法人東京電機大学事業計画書」に基づき、建学の精神、教育・研究理念に沿った各種事業を推進した。

『大学・大学院』では、実学尊重を追求し質の高い教育を目指した。全学的なカリキュラム点検と適正化を推進し、アセスメント科目やCAP制度の見直しを含めた2022(令和4)年度のカリキュラム改編(昼間学部)の方針案を策定した。また、2020(令和2)年度は、新型コロナウイルス感染症拡大への対応として、これまでの教育手法をオンライン化し、初年次教育、アクティブラーニングやものづくり教育等を強化した。履修証明プログラムの推進など社会人教育の充実に取り組み、研究面では独創性の高い研究や地域連携にコロナ禍に対応する形で力を注いだ。大学院では2021(令和3)年度の改編に対応したカリキュラムマップに基づいた専門科目の開講準備を進めた。

その他、新型コロナウイルス感染症拡大への対応としてキャンパス内への入構制限を実施するなか、本学の強みである「めんどろみの良さ」を維持し、さまざまなオンライン中心のサポートを続けるとともに、全学生を対象とした学費の減免および必要に応じた経済的支援を行った。結果として休退学者は例年よりも減少した。就職については、ほぼ例年通りの内定率を維持した。また、学生募集については、対面形式の入試相談会・オープンキャンパスに代わりICTを積極的に活用した施策へと転換し、昨年度を超える志願者数を確保することができた。

『中学校・高等学校』では、中学校において新教育課程に設置される探究授業のカリキュラムを策定し、また、2020(令和2)年度からは、年次計画により中学校・高等学校の生徒全員に対してタブレット端末を利用した教育手法

を導入し、充実した教育体制を整備するとともに教員のスキルアップを図った。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴う休校・自宅学習期間中のオンライン授業の実践により、コロナ禍の副産物として今後の授業実践に関する新しい知見を得た。大学入学共通テストへの対応、東京電機大学推薦進学希望者に国公立大学との併願を認める制度の継続等、東京電機大学との高大連携を推進し理工系を意識した募集活動を実施した。オンラインを活用した募集活動を行いつつ塾訪問も積極的に展開し、中学校では開設以来最高の志願者数となった。

『財政健全化の推進』では、「人件費の削減による人件費比率の抑制」のため、人事諸制度の見直しに継続して取り組んでいるものの削減効果が十分ではなく、積み残し課題となっているなか、前年度に引き続き、支出面では経常的経費等の削減、人件費抑制に繋がる各種手当の見直しや人員の適正配置、超過勤務時間の削減等に取り組んだ。一方、収入面では外部研究資金の獲得や社会人教育(履修証明プログラム等)の履修者数の増加及び大学院入学者の定員確保、休退学者の縮減による学費収入の確保に取り組んだ。また、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う対応の一つとして在学生・在校生に対する学費減免を実施するため、事務部署経費、施設・設備・情報インフラ等の改修・更新事業の各予算の見直し・調整に対応した二度にわたる補正予算を編成した。

『ガバナンスの構築及び運営組織の見直し』では、学校法人としての新型コロナウイルス感染症拡大への対応は、災害対策本部にて扱い各部門における迅速な行動を実現した。

本学園は、私立の教育・研究機関として特色ある人材育成と研究推進、自律した運営体制の確立を目指してきた。教職員は創立者の思いを受け継ぎ、学生・生徒主役を旨としてそれぞれの役割を認識しつつ、互いに連携、協力、新たなチャレンジに挑むことで、未来に責任を持ち、一層輝き続ける強い学園を目指す。

なお、中長期計画～TDU Vision 2023～(改訂版)の進捗・達成状況(2020(令和2)年度)は、7.中長期計画の進捗・達成状況に示した。

1 | 大学・大学院

大学推奨科目「東京電機大学で学ぶ」、ものづくりセンターの各講習などは新型コロナウイルス感染症に対応し、オンラインを最大限に活用し特色ある質の高い教育を維持した。大学院では、2021(令和3)年度大学院改編に向け、学士・修士課程連携のカリキュラムマップの作成、創造工学ユニットの開設準備など分野横断型教育を推進した。また、大学院への進学率向上を期待し、本学博士課程の優秀な学生を総合研究所所属の特任助手(新職種)として雇用する制度の準備を進めた。CySecや実践知プログラム等の履修証明プログラムを実施し、社会人教育の充実に引き続き力を入れた。研究面では、独創性の高い研究に力点を置き推進を図った。

入学年次から卒業年次までの一貫した人材育成は、各講座等をオンラインで実施し職業意識の向上に向けた支援を進めた。また、オンライン学園祭の開催など、学生厚生もオンライン実施を中心としたが、学生支援体制の充実等を通じ、結果として休退学者を縮減し、めんどろみの良さを向上させた。

学生募集広報のICT活用施策への転換、IRデータによる入試種別毎の学力分析を通じ推薦基準や枠を見直すなどの改善を進め、コロナ禍においても大学の入学目標人員を達成した。

また、昨年度に引き続き私立大学等改革総合支援事業において、「特色ある教育の展開」「特色ある高度な研究の展開」「地域社会への貢献(地域連携型)」「社会実装の推進」の4タイプの全項目で選定された。

入学式開催の見送りではじまった2020(令和2)年度、新型コロナウイルス蔓延の影響は大きく、大学の運営に大きな影響があったが、様々な形で対応した。

実学教育の更なる追求を通じた質の高い教育

- 2022(令和4)年度 of 全学問学部カリキュラム改編の検討に伴い5つのWGを立ち上げ、全学FDの開催、アセスメント科目やCAP制度の見直しを含めた方針案を策定
- 教員の自己点検評価は、ほぼ全員が実施
- ものづくりセンターにおいて、各種講習、技術相談等をオンラインにより実施

大学院に軸足をのこした先導的教育で高度技術者育成

- 理工学部・理工学研究科の横型・縦型連携のオナズプログラムは、初年度11名の学生が登録(宇宙工学6名、生体医工学4名、環境工学1名)
- 博士課程に在学する優秀な学生を総合研究所所属の特任助手(新職種)として雇用する制度を新設

社会人教育の充実

- 履修証明プログラムの新規履修者数
CySec:学外者54名・学内者13名、実践知プログラム:学外者2名・学内者12名

独創性の高い研究の更なる推進

- 科研費 2億2千万円(他大学へ支出する分担金を除く)、研究奨励寄付金 9千3百万円(受付実績)、公的研究費・受託研究費・共同研究費 3億5千万円を獲得

グローバルな視点を持つ学生の育成

- 博士課程にInternationalプログラムを設置、本学の英語版のサイトにて紹介
- サザンクロス大学、ビクトリア大学、FPT大学と学術交流協定を締結

目標とする大学像に相応しい受験競争力

- オープンキャンパスに代わる「電大YouTubeキャンパス」を新規に開設し、70本の動画を公開(登録数1,439人、視聴回数33,284回)
- オンライン個別相談会の実施

めんどろみの良さの向上

- オンライン学園祭を開催
- 資格取得のための対策講座を拡充
- 大学独自奨学金制度を活用し、新型コロナウイルスの影響により家計急変となった学生も対象に含め経済的支援を実施

地域連携の推進

- 埼玉東上地域大学教育プラットフォームへ参加
- 足立区内の小学生を対象とした科学・ものづくり体験教室をオンデマンド方式で実施(参加者 185名)



2 | 中学校・高等学校

学習指導要領改訂をふまえ、カリキュラムデザイン委員会を設置して検討・審議を進め、中学校の新教育課程については確定し学則変更手続を終えた。高等学校の新課程については現在も審議中であり、2021(令和3)年10月までに確定させる予定である。また、中教審・学習指導要領に示された授業改善の視点である「主体的対話的で深い学び」を日常の授業に取り込む探究授業のカリキュラム策定を完成させた。2020(令和2)年度の休校・自宅学習期間中のオンライン授業の実践による、コロナ禍の副産物として、今後の授業実践に関する新しい知見を得た。

生徒用タブレット導入初年度にあたり、教育効果と活用状況についてICT部会を中心に検証を進め、オンライン教材の研究と授業のさらなる充実に努めた。今後増加が予想される故障等に対応する窓口整備を進めている。一方でサポート募金の協力依頼を行った。

人との接触機会の削減に伴い、広報活動は訪問・来校型からオンライン型へシフトした。学校説明会及び入試説明会、個別質問会のZoom開催、動画による学校説明、バーチャル見学(パノラマツアー)を導入。入試直前である1月以降は対面による説明会を再開した。2020(令和2)年度はオンラインを活用した募集活動を行いつつ塾訪問も積極的に展開した。結果として2021(令和3)年度の志願者数は、中学校は開設以来最高の1,318人、高等学校は444人となった。

高大連携

- 国公立大と併願可能な電大推薦制度を活用、電大推薦率は21.5%



3 | 財政健全化

財政健全化実行計画の目標である事業活動収支差額比率10%以上を達成し、将来的な施設設備に対する資金積立を行うために、財政健全化実行計画で策定した収入増加、支出の減少に取り組んできた。

2020(令和2)年度は、積み残し課題となっている人件費の削減による人件費比率の抑制、年次計画で実施している施設・設備の改修・更新事業等が影響を及ぼしていることから、当面の財政改善目標を2021(令和3)年度に事業活動収支差額比率3%以上の達成を目標とし、次の項目について取り組み改善を図った。

(1) 収入の部

- ①大学院及び大学の学費改定に伴う学年進行による学生生徒納付金収入の増加

(2) 支出の部

- ①千葉ニュータウンキャンパスの維持・管理費に係る経費の減少
- ②コロナ禍の影響によるシフト勤務、在宅勤務活用推進等による超過勤務時間の抑制
- ③施設・設備の改修・更新事業の一部延期による事業費の減少

また、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う対応の一つとして、在学生・在校生に対する学費減免を実施するため、事務部署経費、施設・設備・情報インフラ等の改修・更新事業の各予算の見直し・調整に対応した二度にわたる補正予算を編成した。

補正予算は、当初予算を下回る厳しい予算編成となったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による学生の学修環境の変化(対面授業からオンライン授業へ)を起因とする休退学者の縮減(学費納入率の上昇)、教職員の教育・研究活動及び日常業務の制限(消耗品費・旅費交通費・会議渉外費・光熱水費等の支出減少)等の要因から、決算値は予算を上回る収入超過となった。



4 | ガバナンスの構築及び運営組織の見直し

教学における執行体制や教学マネジメントについて周知、理解を求め、大学ガバナンスの理解促進を促すとともに、情報戦略の推進とIRデータの利活用促進を図った。人材育成の視点での他大学、協会との人事交流、各評価制度の推進など人事施策、事務部署の統廃合・再編やその準備を実施した。

千葉ニュータウンキャンパスは、暫定運用期間(令和2年3月まで)終了後の応分の費用負担に基づく施設利用方法に則り一部研究施設として利用した。また、中長期更新、改修計画等に基づき、各キャンパスの施設整備を行ったほか、情報インフラでは、各システムの更新等を実施した。



ガバナンスの構築

- 新型コロナウイルス感染症対策会議は、災害対策本部及び大学評議会等と密接に連携、国の方針や感染状況等に合わせたスムーズな学内状況の把握と意思決定を実現

管理運営組織の見直し

- 研究推進社会連携センター再編
- 学生支援センター再編等の準備

各キャンパス施設設備の整備

- 大学キャンパス食堂他の飛沫防止パネル設置、教室の改修等を年度末に実施
- 中高タレット環境整備(2021(令和3)年度入学の生徒用)
- コミュニケーション環境整備(Zoom関連)実施

5 | その他、継続する諸課題

学園力強化を目指し、卒業生との連携強化を促す環境作りに注力した。また、さらなる募金活動の推進を図ったほか、出版局は計画に基づき体制整備を行った。その他、理事会からの検討付議事項、認証評価結果の対応の推進を図った。

卒業生連携と募金活動

- 工学情報「2020年春号」は創立110周年記念号と位置付け発行し、学園理事長、学長、校友会理事長の鼎談を掲載
- 「学校法人東京電機大学サポート募金」
目標達成(目標6千万円:実績約8,452万円)、インターネットを利用した募金が大幅増加

出版局

- 電子化する書目の大枠を決定、売上は前年実績の約1.5倍



6 | 推進のための点検評価

2018(平成30)年度の中長期計画改訂の際に可能な範囲で数値目標設定が付帯された。2020(令和2)年度は、中長期計画工程表(改訂版)の各項目の進捗状況を確認した。



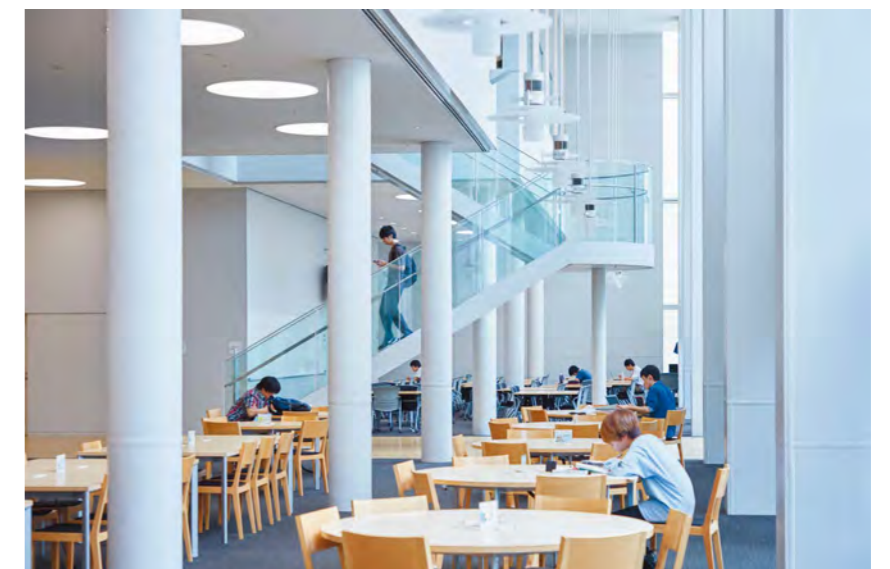
7 | 中長期計画の進捗・達成状況

本学園は、2012(平成24)年度に学園創立100周年記念事業の中核であった東京千住キャンパスを開設し、次の100年に向けた基盤整備が整った状況を踏まえ、社会環境の変化に適応し輝き続ける東京電機大学の実現を目指すべく、2014(平成26)年度から10年間を目途とする「学校法人東京電機大学中長期計画～TDU Vision 2023～」を策定した。

この中長期計画に基づき、2014(平成26)年度から2018(平成30)年度の5年に亘り、全学的改編、東京千住キャンパス5号館竣工、ものづくりセンター開設、情報環境学部等の千住移転など大型事業を推進した。

2019(令和元)年度以降の後半5年間については、社会情勢の変化、また中長期計画を推進する中で顕在化した新たな課題、学園を巡る計画策定時からの変化などを踏まえ、中長期計画の趣旨を尊重しつつ、2018(平成30)年度に計画全般の改訂を行った。

改訂した中長期計画の2年目、10年間の中長期計画の7年目に当たる2020(令和2)年度については、概ね計画どおり進捗したが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、いくつかの活動項目で進捗が遅れる結果となった。



財務情報

- 財務ハイライト
- 資金収支計算
- 活動区分資金収支計算
- 事業活動収支計算
- 貸借対照表

財務の概要 (2020年度)

財務ハイライト

学校法人東京電機大学の2020年度決算は、2021年5月31日開催の評議員会・理事会において承認されました。2020年度決算の概要は次のとおりです。

資金収支計算

前年度繰越	72.7億円
資金収入	192.8億円
資金支出	186.8億円



この結果、翌年度繰越支払資金は、78.7億円となりました。

活動区分資金収支計算

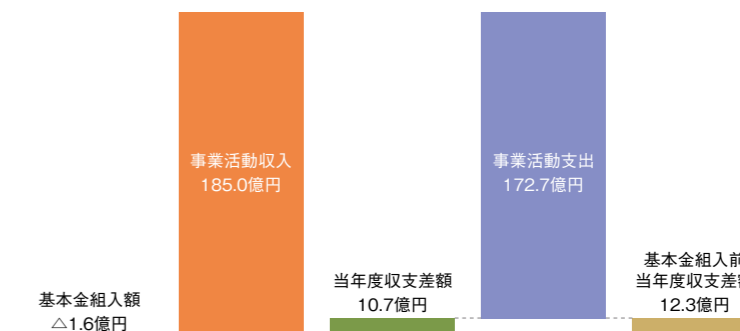
教育活動	42.6億円
施設整備等活動	△38.3億円
その他の活動	1.7億円



この結果、支払資金の増減額は、6.0億円となりました。

事業活動収支計算

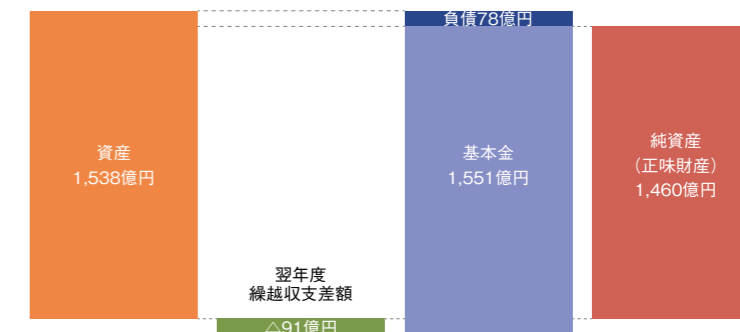
事業活動収入	185.0億円
事業活動支出	172.7億円
基本金組入額	△1.6億円



この結果、当年度収支差額は10.7億円、事業活動収支差額比率は6.6%となりました。

貸借対照表

資産の部	1,538億円
負債の部	78億円
基本金	1,551億円



この結果、翌年度繰越収支差額は△91億円となりました。

2020年度に優先的に取り組んだ主な事業

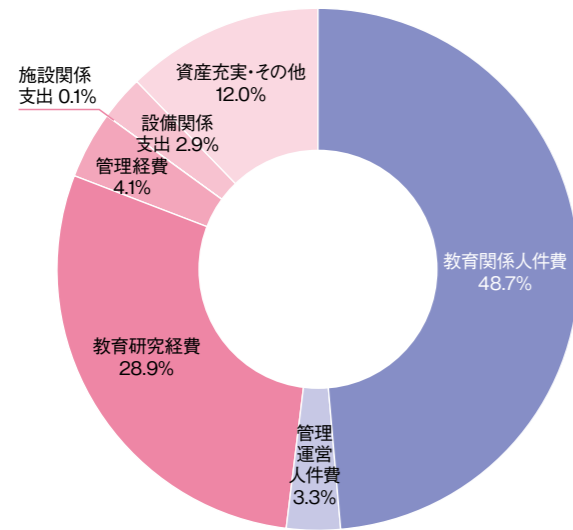
[一般会計]

事業内容	金額
新MARCOシステム導入	59,876
大学PC環境整備	36,334
中高タブレット環境整備	9,520
勤怠管理システムバージョンアップ	18,322
統合DB(可視化ツール機能追加)	6,270
コミュニケーション環境整備 (Zoom)	24,350
サーバ基盤強化	3,476
トータルコーディネート委託	39,600
東京千住キャンパス 電話交換機等更新準備	3,520
埼玉鳩山キャンパス 電話交換機等更新準備	1,430
東京小金井キャンパス 教室什器更新	15,943
計	218,641

事業内容	金額
試料水平型多目的X線回折装置(理工学部)	49,049
フローサイトメーター(理工学部)	22,000
示差熱分析システム(工学部)	7,920
マグネトロンスパッタ装置一式(工学部)	5,148
計	84,117

学費・補助金収入の使われ方

2020年度の学費収入と国や地方公共団体等からの補助金収入の合計を100とした場合の使用状況は次のとおりです。



経費の内訳	比率
教育関係人件費	48.7%
管理運営人件費	3.3%
教育研究経費	28.9%
管理経費	4.1%
施設関係支出	0.1%
設備関係支出	2.9%
資産充実・その他	12.0%

次のページから学校法人会計基準に基づく2020年度(2020年4月1日から2021年3月31日まで)の財務計算書を報告いたします。

資金収支計算

資金収支計算書について(学校法人会計基準第6条の要旨)

当該会計年度の諸活動に対応する全ての収入及び支出の内容並びに当該会計年度における支払資金(現金預金)の収入及び支出のてん末を明らかにすることを目的としています。

収入の部

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	14,273,778	14,366,176	△ 92,398
手数料収入	627,124	730,664	△ 103,540
寄付金収入	140,860	167,211	△ 26,351
補助金収入	1,992,707	2,043,484	△ 50,777
資産売却収入	300,000	140,000	160,000
付随事業・収益事業収入	264,010	372,245	△ 108,235
受取利息・配当金収入	167,590	176,424	△ 8,834
雑収入	545,150	574,969	△ 29,819
借入金等収入	0	250	△ 250
前受金収入	2,517,579	2,606,146	△ 88,567
その他の収入	780,407	948,631	△ 168,224
資金収入調整勘定 ^(※1)	△ 2,448,579	△ 2,849,597	401,018
前年度繰越支払資金	7,270,128	7,270,128	
収入の部合計	26,430,754	26,546,731	△ 115,977

■予算と決算の差異の主な理由

- ①収入の部
- 学生生徒等納付金収入(92,398千円増加)
学費の納入率の上昇により、予算計上額を上回りました。
 - 手数料収入(103,540千円増加)
前年度と同数程度の志願者数の確保により、予算計上額を上回りました。
 - 寄付金収入(26,351千円増加)
サポート募金及び研究奨励寄付金の増加により、予算計上額を上回りました。
 - 補助金収入(50,777千円増加)
新型コロナウイルスに関連した国庫補助金・地方公共団体補助金の増加、研究関連の補助金の増加により、予算計上額を上回りました。
 - 資産売却収入(160,000千円減少)
第3号基本金引当特定資産の購入金額の変更に伴い増額計上しましたが、結果として有価証券の売却収入が予算計上額を下回りました。
 - 付随事業・収益事業収入(108,235千円増加)
公開講座の受講者の減少により補助活動収入は減少しましたが、委託研究の受入額の増加により研究収入が増加したため、予算計上額を上回りました。
 - 雑収入(29,819千円増加)
依頼退職者等の増加による財団からの交付金収入の増加及び補正予算で未計上の施設設備利用料収入があり、予算計上額を上回りました。
 - 前受金収入(88,567千円増加)
入学予定者数の増加により、予算計上額を上回りました。
 - その他の収入(168,224千円増加)
減価償却・サポート募金引当特定資産の取崩額は減少しましたが、第3号基本金特定資産の取崩額及び預り金受入収入の増加により、予算計上額を上回りました。

※1 資金収入調整勘定: 当年度の収入科目が、前年度又は翌年度に入金となる場合の調整科目です。具体的には前年度以前に徴収済みの前受額を「前期末前受金」、当年度末の未取額を「期末未収入金」として表示します。

支出の部

科目	予算	決算	差異
人件費支出	8,484,181	8,526,280	△ 42,099
教育研究経費支出	5,307,484	4,816,163	491,321
管理経費支出	881,518	721,118	160,400
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	27,948	24,596	3,352
設備関係支出	383,699	476,746	△ 93,047
資産運用支出	4,093,354	4,198,497	△ 105,143
その他の支出	257,750	240,356	17,394
予備費	(126,047) 3,953		3,953
資金支出調整勘定 ^(※2)	△ 261,544	△ 322,472	60,928
翌年度繰越支払資金	7,252,411	7,865,447	△ 613,036
支出の部合計	26,430,754	26,546,731	△ 115,977

■予算と決算の差異の主な理由

- ②支出の部
- 人件費支出(42,099千円増加)
依頼退職者等に係る退職金の支払いの増加により、予算計上額を上回りました。
 - 教育研究経費支出(491,321千円減少)
オンライン化(授業、学会、会議、テレワーク、イベント等)の促進及び部署経費の執行額の減少により、予算計上額を下回りました。
 - 設備関係支出(93,047千円増加)
委託研究の増加による機器備品及びオンライン化に対応した情報通信機器の購入費用の増加等により、予算計上額を上回りました。
 - 資産運用支出(105,143千円増加)
減価償却額の確定による減価償却引当特定資産の繰入及び次年度繰越額の確定による委託研究等引当特定資産の繰入等により、予算計上額を上回りました。
 - その他の支出(17,394千円減少)
貸付金の減少及び預り保証金の返還の増加(テナントの賃料の減額分を敷金から充当)の差異により、予算計上額を下回りました。

※2 資金支出調整勘定: 当年度の支出科目が、前年度又は翌年度に支出となる場合の調整科目です。具体的には前年度以前に支払資金の支出となったものを「前期末前払金」、翌年度以後に支払資金の支出となるものを「期末未払金」として表示します。

活動区分資金収支計算

活動区分資金収支計算書について（学校法人会計基準第14条の2要旨）

資金収支計算書を組み替えて、現預金の流れを活動区分ごとに把握することができます。

区 分	金 額	内 容 説 明
教育活動資金収支差額	42.6億円	キャッシュベースでの本業の教育活動の収支状況を見ることができます。
施設整備等活動資金収支差額	△ 38.3億円	当年度に施設設備の購入等があったか、財源がどうだったかを見ることができます。
その他の活動資金収支差額	1.7億円	借入金の収支、資金運用の状況等、主に財務活動を見ることができます。
支払資金の増減額	6.0億円	

事業活動収支計算

事業活動収支計算書について（学校法人会計基準第15条の要旨）

当該年度の①教育活動、②教育活動以外の経常的な活動、①、②以外の活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容を明らかにするとともに、基本金に組み入れる額を控除した当該年度の諸活動に対応する全ての事業活動収入及び事業活動支出の均衡の状態を明らかにすることを目的としています。

(単位：千円)

科 目	予 算	決 算	差 異
教育活動収支差額①	△ 92,385	944,231	△ 1,036,616
教育活動外収支差額②	170,000	178,854	△ 8,854
経常収支差額③	77,615	1,123,085	△ 1,045,470
特別収支差額④	38,796	105,838	△ 67,042
予備費	13,549	—	13,549
基本金組入前 当年度収支差額⑤	102,862	1,228,923	△ 1,126,061
基本金組入額合計⑥ ^(※1)	0	△ 157,128	157,128
当年度収支差額	102,862	1,071,795	△ 968,933
前年度繰越収支差額	△ 10,161,488	△ 10,161,488	0
基本金取崩額 ^(※2)	135,402	0	135,402
翌年度繰越収支差額	△ 9,923,224	△ 9,089,693	△ 833,531

(参考)

事業活動収入計	18,011,351	18,504,464	△ 493,113
事業活動支出計	17,908,489	17,275,541	632,948

※1 学校法人を維持するために必要な資産を継続的に保持するための組入額を表します。基本金取崩額がある場合にはその差額を表示することになりますが、取崩額が組入額を超える場合には0表示となります。

※2 資産売却や処分等による当該基本金の取崩額を表します。基本金取崩額が組入額を超える場合には、その超える金額を表示します。

■予算と決算の差異の主な理由

- ①教育活動収支差額(1,036,616千円増加)**
【経常的な収支のうち、本業の教育活動の収支状況】
事業活動収入では、全ての収入科目で増加となった一方で、事業活動支出では、教育研究経費と管理経費の支出が減少したことにより、教育活動収支差額は、予算計上額を上回りました。
- ②教育活動外収支差額(8,854千円増加)**
【経常的な収支のうち、財務活動による収支状況】
事業活動収入の受取利息・配当金が外国債券の金利上昇等により、予算計上額を上回りました。
- ③経常収支差額(1,045,470千円増加)**
【経常的な収支バランス：①教育活動収支差額+②教育活動外収支差額】
主に経常的な本業の教育活動の収支である教育活動収支差額が増加し、予算計上額を上回りました。
- ④特別収支差額(67,042千円増加)**
【資産売却や処分等の臨時的な収支状況】
教育研究用機器備品の寄贈(科学研究費等)の計上及び同機器備品の処分差額の減少により、予算計上額を上回りました。
- ⑤基本金組入前当年度収支差額(1,126,061千円増加)**
【毎年度の収支バランス】
主に経常的な本業の教育活動の収支である教育活動収支差額が増加したことにより、基本金組入前当年度収支差額は予算計上額を上回りました。
- ⑥基本金組入額合計(157,128千円増加)**
【学校法人を維持するために必要な資産を継続的に保持するための組入額】
教育研究用機器備品の増加及び同機器備品の除却の減少により、組入額を計上した。なお、組入額の計上により、取崩額は135,402千円減少し0円となりました。

基本金の組入額の内訳及び2021年3月末の基本金は、次のとおりです。

基本金組入額	2021年3月末基本金
〈第1号基本金〉	148,414,222千円
本年度取得資産額 (自己資金による支払分)	501,343千円
本年度取得資産額 (寄贈分)	67,718千円
前年度取得資産に係る 未払金の本年度支払額	3,881千円
本年度除却額	△ 415,814千円 157,128千円
〈第2号基本金〉	0千円
該当なし	
〈第3号基本金〉	5,500,000千円
該当なし	
〈第4号基本金〉	1,120,000千円
該当なし	

貸借対照表

貸借対照表について（学校法人会計基準第32条の要旨）

資産、負債及び純資産の科目ごとに、当該会計年度末の額を前会計年度末の額と対比して、当該会計年度末の財産の状態を表すものです。

資産の部

(単位：千円)

科目	年度	2020末	2019末	増減
固定資産		145,494,123	144,843,223	650,900
有形固定資産		100,509,431	103,278,677	△ 2,769,246
特定資産		43,849,630	40,379,398	3,470,232
その他の固定資産		1,135,062	1,185,148	△ 50,086
流動資産		8,281,390	7,540,791	740,599
資産の部合計		153,775,513	152,384,014	1,391,499

負債及び純資産の部

(単位：千円)

科目	年度	2020末	2019末	増減
負債の部		7,830,984	7,668,408	162,576
固定負債		3,948,809	4,109,949	△ 161,140
流動負債		3,882,175	3,558,459	323,716
純資産の部		145,944,529	144,715,606	1,228,923
基本金 ^(※1)		155,034,222	154,877,094	157,128
繰越収支差額		△ 9,089,693	△ 10,161,488	1,071,795
負債及び純資産の部合計		153,775,513	152,384,014	1,391,499

※1 学校法人が、その諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして、その事業活動収入のうちから組み入れた金額です。

■貸借対照表各科目の主な増減理由

- ①資産の部**
 - 有形固定資産(2,769,246千円減少)
当年度の減価償却資産の資産価値減少額(当期償却額)が該当資産の取得額を上回るため、有形固定資産が減少しました。
 - 特定資産(3,470,232千円増加)
減価償却資産の更新資金の積立等により、特定資産が増加しました。
 - その他の固定資産(50,086千円減少)
長期前払金の一部流動資産への振替及び長期貸付金の返済により、その他の固定資産が減少しました。
 - 流動資産(740,599千円増加)
資金収支における繰越支払資金の増加による現金預金及び未収入金の増加により、流動資産が増加しました。
- ②負債の部**
 - 固定負債(161,140千円減少)
退職給与引当金の繰入額及び長期預り保証金の減少により、固定負債が減少しました。
 - 流動負債(323,716千円増加)
授業料等の前受金、科学研究費の繰越等による預り金及び未払金の増加により、流動負債が増加しました。

③純資産の部

- 〈基本金〉
- 第1号基本金(157,128千円増加)
固定資産の取得により、基本金を組み入れました。
- 〈繰越収支差額〉
- 翌年度繰越収支差額(1,071,795千円増加)
教育活動収支の改善により、翌年度繰越収支差額が増加しました。

TDU Edge

特色ある取り組み

本学園は「技術は人なり」の理念のもと
幅広い分野で社会とつながり
科学技術の発展と豊かな未来に向け
様々な取り組みを行っています。

- P26 研究
- P28 教育
- P31 連携・協働
- P33 社会とTDU



TDU Edge 01 研究

高度な技術と独創性で 科学技術の発展に貢献する

研究の取り組みの成果

教員等の受賞・表彰 (2020年度受賞、所属・職位は受賞時) 現教員以外の受章・受賞・表彰も合わせて報告します。

- | | |
|---|---|
| <p>安田進 名誉教授</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2019年度日本地震工学会 功績賞 ・ 日本河川協会 令和2年河川功労者表彰 <p>工学部 電気電子工学科 陶山健仁 教授</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電子情報通信学会 基礎・境界サイエティ 貢献賞(会議運営) <p>工学部 情報通信工学科 井上潮 教授</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本データベース学会 功労賞 <p>工学部 情報通信工学科 今井哲朗 教授</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電子情報通信学会 令和元年度業績賞 <p>工学部 情報通信工学科 金田豊 教授</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電子情報通信学会 令和元年度業績賞 | <p>研究推進社会連携センター 小林亘 教授
(レジリエントスマートシティ研究所 所長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土木学会 土木情報システム開発賞 <p>工学部 機械工学科 井上淳 准教授</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本工学教育協会 第24回(2019年度)工学教育賞 論文・論説部門 <p>理工学部 情報システムデザイン学系 松浦昭洋 教授</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認定NPO法人芸術と遊び創造協会 "グッド・トイ2020" ・ 総務省 異能vationプログラム ジェネレーションアワード部門 株式会社コーエーテクモホールディングス賞(企業特別賞) <p>システムデザイン工学部 デザイン工学科 徳永弘子 共同研究員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電子情報通信学会HCGシンポジウム2020 最優秀インタラクティブ発表賞 |
|---|---|

●学校法人東京電機大学学術振興基金 各賞受賞者

この基金は、本学園の研究機関及び研究者等を援助するために設け、特色ある新分野を拓く学術研究及び学術研究の国際交流等を奨励し、学術の向上発展に寄与することを目的としています。(2020(令和2)年度)の受賞者、所属等は受賞時)

- 教育賞** **山田あすか 教授** (未来科学部 建築学科)
標 題：演習と講義を一体化した実践・体験の学びと、学部・修士縦型統合教育の試み
- ヨークジェームズ 講師** (理工学部 共通教育群)
標 題：学生の趣味を生かしたコネクテッド・ラーニングについて:オンライン授業ならではの、英語コミュニケーション能力を養う学習法
- 発明賞** **【教員・嘱託部門】松村隆 教授** (工学部機械工学科)・**芹沢正規さん** (工学部機械工学科 研究生)
発明の名称「シミュレーション装置及びシミュレーション方法並びに2軸切削加工機」
- 【学生・生徒部門】中島大地さん** (工学研究科電気電子工学専攻 修士課程 2020年3月修了)
発明の名称「積層鉄心及びその製造方法」
- 論文賞** **上山裕理さん** (先端科学技術研究科機械システム工学専攻)
論文名「Spindle-runout generator devices to evaluate a rotary encoder's ability to detect spindle runout」
植木潤 助教 (システムデザイン工学部数学系列)
論文名「Idelic class field theory for 3-manifolds and very admissible links」

文部科学省、日本学術振興会 科学研究費補助金の採択状況(件)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
新学術領域	0	1	2	2	1
基盤研究A	0	0	0	0	0
基盤研究B	6	8	6	6	8
基盤研究C・基盤研究C特設	68	66	67	78	84
挑戦的研究(開拓・萌芽)	11	10	6	1	1
若手研究A	1	1	1	2	0
若手研究B・若手研究	18	24	18	17	19
特別研究員奨励費	2	0	0	0	0
学術図書	0	0	0	1	0
研究活動スタート支援	2	0	0	1	3
奨励研究	0	0	1	1	0
計	108	110	101	109	116

上記以外の公的補助金・助成金の採択状況	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
件数(件)	11	9	16	15	23

受託研究の受け入れ状況 (継続を含む入金額)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
件数(件)	59	74	72	60	66
受入額(円)	283,492,930	260,554,650	286,672,965	153,095,679	228,172,628

共同研究の状況 (継続を含む)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
件数(件)	102	110	111	112	126
受入額(円)	80,857,979	102,798,911	84,791,094	98,177,647	122,668,664

特許申請(保有件数)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
出願件数(件)	29	30	20	28	16
特許取得件数(件)	16	10	12	16	20

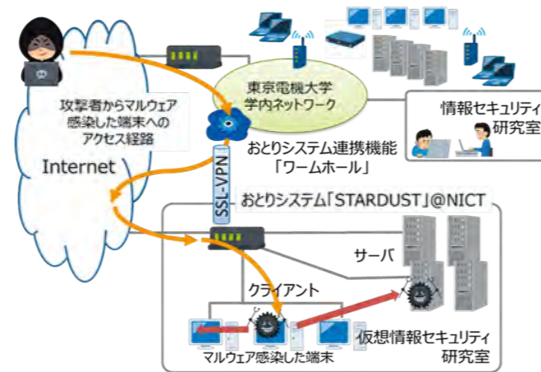
研究奨励寄付金の受け入れ状況	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
件数(件)	73	83	89	109	70
受入契約額(円)	111,185,716	82,113,932	88,971,377	99,117,409	93,152,407

研究関連トピックス

東京電機大学・TDU-CSIRT^{*1}と情報セキュリティ研究室
「おとりシステム^{*2}」を使った動的活動観測システムを11月より運用開始

[指導教員]
未来科学部 情報メディア学科
寺田真敏 教授

11月1日より、組織の情報ネットワークシステムを模擬する「おとりシステム」を使った動的活動観測システムの運用を開始しました。“大学のネットワーク内”という実環境に「おとりシステム」を組み込み、運用する中で起きた諸問題、およびその対処方法を実体験する社会実装研究です。具体的には、TDU-CSIRTと同研究室が協力しておとりシステムを本学のネットワークの一部として組み込み、ワームホール機能と併用して本学のネットワークと一体化させることで、攻撃者が「本学のネットワークか」「おとりシステムか」を見分けることが困難であることを生かしたセキュリティ対策を推進するとともに、この対処方法の実体験を本学のセキュリティ対策への活用につなげます。また、学生はおとりシステムを活用して、マルウェアの活動と運用監視について学ぶことで、実社会で必要とされる技術を体感するだけでなく、セキュリティ人材としての素地を養うことができます。



詳しくはこちら

※1 シーサート(CSIRT: Computer Security Incident Response Team)とは、コンピュータセキュリティにかかるインシデントに対処するための組織の総称です。
※2 「おとりシステム」は、NICT(国立研究開発法人情報通信研究機構)が開発したサイバー攻撃誘引基盤「STARDUST」です。

その他研究関連ニュース

理工学部 生命科学系
長原礼宗 教授

研究テーマ「経皮投与デバイス PassPort® System(開発:PassPort Technologies, Inc.)による抗がん剤および血中コレステロール総量モジュレーター(調整薬)の投与手段の開発」が、東北大学病院臨床研究推進センターの令和2年度日本医療研究開発機構「橋渡し研究戦略的推進プログラム 異分野融合型研究シーズ課題」に採択

理工学部 生命科学系
村松和明 教授

研究テーマ「ヒアルロン酸誘導体で処理された間葉系幹細胞を利用した免疫寛容誘導法の開発」が、慶應義塾大学病院 臨床研究推進センターによって開発支援が行われた、令和2年度日本医療研究開発機構「橋渡し研究戦略的推進プログラム 異分野融合型研究シーズ課題」に採択

システムデザイン工学部 情報システム工学科
松井加奈絵 准教授

情報環境学研究所 情報環境学専攻(修士課程) エクスポリス合同会社 社長兼CEO 西垣一馬さん

エクスポリス合同会社、日本アイ・ビー・エム株式会社と共同で実証実験を進めてきた、地域内でデータの流通を促進する「データ流通プラットフォーム」と、流通データを元に開発されたソリューションを広く自治体に共有・販売する「マーケットプレイス」を、エクスポリスから2021年8月より「Anastasia」としてサービス提供開始

教育の取り組みの成果

学生の受賞・表彰 (2020年度受賞、所属・学位は受賞時)
学会やコンクールでの発表などで、大学院生や学部生が様々な受賞や表彰を受けています。

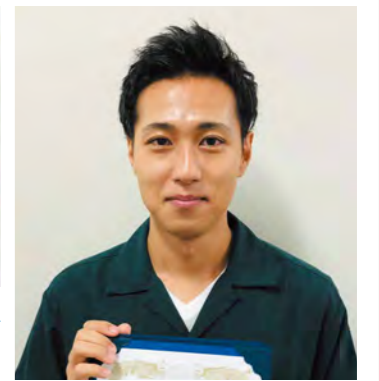
TOPICS ①

日本食品工学会
第21回(2020年度)年次大会
優秀発表賞

受賞発表名
フード3Dプリンタを用いた食感設計



フード3Dプリンタで
作成した寿司



理工学研究科 生命理工学専攻 清水純平さん(修士2年)

TOPICS ②

第36回義肢装具学会学術大会
Student Investigator Award
優秀学生演題賞

受賞発表名
筋電義手の故障分析に基づく
予知保全システムの開発

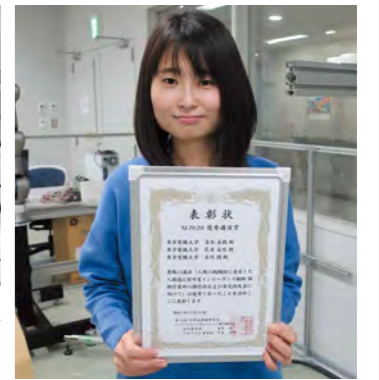


理工学研究科 電子・機械工学専攻 後藤晃子さん(修士2年)

TOPICS ③

第21回計測自動制御学会
システムインテグレーション部門講演会 SI2020
優秀講演賞

受賞発表名
人間の腕剛性に着目した人間適応型可変インピーダンス制御
～協働作業時の操作性および安定性改善に向けて～



未来科学部 ロボット・メカトロニクス学科 清水美穂さん(4年)



その他の受賞についてはこちら

学生の活躍

学生の活躍・団体活動・イベントへの参加

TOPICS 1

Formula SAE
Australasia 2020に参加



2019年の走行車両



オンラインでのコストイベントの様子

TOPICS 2

ゲームクリエイター甲子園2020
ユーザー大賞、企業賞(ファーストインパクト賞)、
9月話題賞、10月話題賞



受賞作品名: PREDATOR AND WRECK 捕食者と崩壊

TOPICS 3

ゲームクリエイター甲子園2020
総合大賞3位、審査員賞(鈴木英仁賞)、
話題賞



受賞作品名: れーぞく! ネクロロマンスちゃん

TOPICS 4

2020全日本エンデューロ選手権
(JEC: JAPAN ENDURO CHAMPIONSHIP)
7位入賞

TOPICS 5

MOS世界学生大会2020 日本代表選考会
高等学校・高等専門学校・高等専修学校部門
ワード2位、エクセル入賞

TOPICS 6

2021年バレンタインプロジェクト 文芸社 Loves
TOKYO FM ラジオドラマ原案募集
『for you... 大切なあなたへ』短編部門 優秀賞

TOPICS 7

第18回
TDUアイデア
コンテスト
優秀賞



Minecraftでバーチャル大学を建設

TOPICS 8

第17回ACジャパン広告学生賞 新聞広告部門 優秀賞
第17回ACジャパン広告学生賞 TVCM部門 優秀賞

TOPICS 9

第66回 角川短歌賞 佳作入選

中学校・高等学校の取り組み

●東京電機大学中学校・高等学校の校訓

人間らしく生きる

τό ἀνθρωπίνως ξὴν μανθάνομεν.
~人間らしく生きることを学ぶ~

中学校の 教育方針

生徒と教員の信頼関係を大切にしながら、自主性や社会性、学習への積極的な姿勢を育み、6年後の大きな飛躍へと導く。

中学1年:生活・学習両面の自主性を高める
中学2年:自立した学習法を習慣化する
中学3年:将来の目標を定めるきっかけをつかむ

●教育目標

生徒一人ひとりが個性を伸ばし、豊かな人間性と高い知性と強靱な体をそなえ、新しい時代と国際社会の中で活躍し、信頼と尊敬を得る人間となるよう教育する。「豊かな心・創造力と知性・健やかな身体」をそなえた人を育てることが、本校の目標です。

高等学校の 教育方針

大学入試に対応できる学力をつけるだけでなく、さまざまな職業に対する知識を深めることで生徒の希望する進路へと導く。

高校1年:現実的な視点に基づく進路選択眼を養う
高校2年:進路目標を学習意欲に結びつける
高校3年:目標達成に向けて全力で取り組む

●志願者数

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
中学校	913	960	1,198	1,147	1,318
高等学校	458	472	494	449	444
合計	1,371	1,432	1,692	1,596	1,762

●進路状況(2020年度)

高等学校

卒業生数	本学(学部)	他大学・短大	専門学校	就職	その他
普通科(270人)	59人	161人	11人	0人	39人

中学校

卒業生数	内部進学	他校進学
中学校(147人)	143人	4人

●進路(高等学校 教育の取り組みの成果)

ほぼ全員が進学希望, 2020年度卒業生現役進学率85.6%

2021年度入試 主な大学入試合格状況(現役生の延べ人数。2021年4月現在)

国公立大学 東京農工2名、東京都立2名、東京学芸1名、帯広畜産1名、山梨1名、埼玉1名、岩手1名、弘前1名、青森公立1名

私立大学 早稲田1名、上智1名、東京理科7名、学習院6名、明治11名、青山学院1名、立教2名、中央9名、法政9名、同志社1名、日本29名、東洋12名、駒澤3名、専修3名、成蹊8名、成城4名、芝浦工業11名、東京都市3名、工学院5名、東京工科大学10名、明治薬科1名、東京薬科5名、昭和薬科2名、麻布2名、亜細亜2名、桜美林7名、北里3名、国立音楽1名、杏林7名、國學院3名、産業能率2名、淑徳2名、白百合女子2名、順天堂3名、女子美術2名、実践女子4名、創価2名、高千穂2名、大正3名、多摩美術4名、玉川3名、拓殖4名、多摩2名、大東文化6名、津田塾2名、帝京平成9名、帝京15名、東京有明医療1名、東京慈恵会医療1名、東京農業4名、東京工芸7名、東海6名、東京経済12名、東京女子5名、日本女子3名、文京学院3名、武蔵野14名、目白2名、明星23名

東京電機大学 [学内推薦 58名] (昨年度50名)
[一般受験合格者 7名] (昨年度15名)

●中学校の受賞・成績

- 日本私立中学高等学校連合会賞

●高等学校の受賞・成績

- 東京都知事賞
- 東京都私学財団賞
- 日本私立中学高等学校連合会賞
- 高校生新聞社賞
- (公財)東京都体育協会並びに東京都高等学校体育連盟賞
- 東京都高等学校文化連盟賞
- 東京都高等学校野球連盟賞
- 東京都高等学校吹奏楽連盟理事長賞
- エスエヌ生命保険
- ジュニアアチーブメント日本共催 Social Innovation Relay(SIR)国内大会優勝
- 第43回 東京都高等学校文化祭 放送部門 アナウンス部門(第4位) 朗読部門(精励賞)

TDU Edge 03 連携・協働

多彩なネットワークを活かした 研究・教育の推進

時代をリードする先端領域を切り拓くためには、組織の枠を超えた協働により、新たな価値を生み出すための取り組みが重要です。東京電機大学は、他大学や外部研究機関との組織的な連携・交流を積極的に推進し、教育と研究のさらなる発展に注力しています。

外部機関とのネットワーク

PICK UP

「埼玉加工・業務用野菜スマート農業実証
コンソーシアム」が農林水産省「スマート農業技術の
開発・実証プロジェクト」の委託先として採択



【コンソーシアム代表】
未来科学部 ロボット・メカトロニクス学科
釜道 紀浩 教授

農業分野では、高齢化や担い手の減少による労働力不足、食料自給率の低下など、様々な問題を抱えています。本プロジェクトは、技術発展の著しいロボット・AI・IoTなどの先端技術を活用して超省力・高品質生産を実現する新たな農業（スマート農業）を実証し、社会実装を加速させていく事業です。スマート農業技術を生産現場に導入し、2年間にわたって技術実証を行うなかで、導入効果や経営効果を明らかにすることを目的としています。

本コンソーシアムは「加工・業務用野菜サプライチェーン最適モデル構築を目的とした、キャベツ・玉ねぎの機械化栽培技術体系と産地リレーと連動したスマート農機の県間広域シェアリングによる低コスト技術体系の実証」を提案し、採択に至っています。具体的には、自動運転トラクタや収穫機などのスマート農機の導入で機械化一貫体系を構築して省力化・生産性向上を実現するとともに、収穫機の産地間広域シェアリングによる長期間稼働・導入コスト低減や、需要側との情報連携によるサプライチェーン全体の効率化の実証を進めています。



詳しくはこちら ▶



国際

海外協定校及び交流のある海外大学
(17の国と地域から39大学・1研究機関)

アメリカ

アメリカ：コースタルカロライナ大学、コロラド大学、パデュー大学、マーシャル大学、フェアモント州立大学、アーカンソーテック大学、ハワイ大学ヒロカ、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校
カナダ：ビクトリア大学

ヨーロッパ

イギリス：ケンブリッジ大学ホマートンカレッジ、ノーサンプトン大学
ドイツ：イルメナウ工科大学
フランス：フランス国立高等精密機械工学大学院大学(ENSMM)
フィンランド：ラップランド応用科学大学
エストニア：タリン工科大学

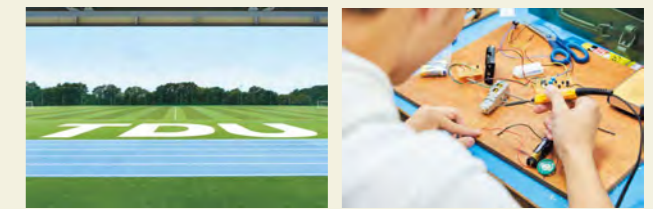
アジア・オセアニア

オーストラリア：シドニー大学、クイーンズランド工科大学、サザンクロス大学
韓国：大邱大学校、ソウル科学技術大学校、全北大学校
中国：大連理工大学、同濟大学、北京科技大学、新疆大学、深圳技術大学
台湾：中原大学、元培医事科技大学
インド：チャンディーガル大学、インド理科大学
ベトナム：ベトナム国家大学ホーチミン市校工科大学、FPT大学
インドネシア：ヌサンタラ・マルチメディア大学
マレーシア：マラ工科大学、マレーシア工科大学
タイ：泰日工業大学、シンクロトン光研究所、モンクット王工科大学トンプリー校、マハサラカム大学
ブルネイ・ダムサラーム：ブルネイ工科大学

研究機関

連携研究機関

国立研究開発法人 理化学研究所 / 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 / 一般財団法人 電力中央研究所 / 国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 / 国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所 / 国立研究開発法人 物質・材料研究機構 / 国立研究開発法人 情報通信研究機構 / NHK放送技術研究所 / 独立行政法人 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 / 日本電信電話株式会社 (NTT物性科学基礎研究所) / 公益財団法人 相模中央化学研究所



- 学外の研究機関と連携して大学院生の研究指導を行う「連携大学院方式」で、研究領域の多様化と研究内容の拡大を図り、大学院教育の活性化を目指します。
- 最新の設備と機器を備えた研究機関において、また客員教授として迎えた連携先研究者のもとで、研究指導を受けることができます。連携先及び客員教員は今後も拡大を図る予定です。

他大学・地域



東京理工系4大学単位交換制度

本学、芝浦工業大学、東京都市大学、工学院大学

- 各大学の学部及び大学院修士課程の授業を履修できる「単位互換制度」
- いずれの大学院にも特別推薦により進学できる「特別推薦入試制度」

首都大学院コンソーシアム

本学、順天堂大学、専修大学、中央大学、東京理科大学、東洋大学、日本大学、法政大学、明治大学、共立女子大学

- 加盟している各大学大学院の専攻において、授業科目の履修と、一部では研究指導を受けることが出来る。

彩の国大学コンソーシアム

本学、跡見学園女子大学、埼玉医科大学、十文字学園女子大学、城西大学、尚美学園大学、駿河台大学、西武文理大学、大東文化大学、東京家政大学、東邦音楽大学、日本医療科学大学、文京学院大学、明海大学

- 埼玉県西部にキャンパスを有する14の私立大学によって構成されている友好交流協定。単位互換と公開講座を柱として活動を行っており、そのうちの10大学において単位互換制度を実施している。

学術連携協力



山形大学工学部、日本工業大学、公立はこだて未来大学、東京医科歯科大学等

文部科学省「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT)」第2期を共同運営

- 14大学が連携して「BasicSecCap」コースを共同運営
- 情報セキュリティ分野における実践的人材を育成する

足立区6大学連携

本学、放送大学、東京藝術大学、東京未来大学、帝京科学大学、文教大学

埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)

- 埼玉県東上地域に所在する20大学・短期大学、関連する自治体、企業等が連携
- 本学が代表校(2021年3月まで)を務め、連携を推進



産官学連携に関する交流会

- 東京電機大学経営同友会
大学ならびに校友会の協力・連携の下に産学協同のネットワークとして2001(平成13)年に発足。正会員数は96名です。*
- TDU産学交流会(埼玉鳩山キャンパス)
埼玉県内の企業と理工学部との交流会として1990(平成2)年に発足。会員は27社です。*
※2021年4月現在

創業支援施設「かけはし」

- 東京千住アネックスにて、足立区から補助を受けて、創業支援施設「かけはし」を2011(平成23)年12月から運営しています。
- インキュベーションオフィス14室とシェアードオフィス12ブースがあります。
- 旧足立区立の中学校を利活用した事業として注目されています。



TDU Edge 04 社会とTDU

受け継がれる理念と実績 技術で社会を牽引

卒業生の活躍

■ 卒業生が現役トップの上場企業 (社長・会長クラス)

上場企業の代表権のあるトップは10名(全国42位)、役員は55名(全国60位)。

会社名	資本金	従業員(人)	事業内容
アンリツ株式会社	191.51億円	3,881	通信用計測器の大手企業。スマホ開発用に強い。食品の異物検出機なども展開。海外でも高シェア。
亀田製菓株式会社	19.46億円	3,379	菓子の製造販売。国内米菓市場の約30%を占める。米国、中国など世界に米菓を広げている。
株式会社駒井ハルテック	66.19億円	650	鉄骨・橋梁の大手。東京スカイツリーや東京湾アクアライン、超高層ビルなどに実績。
株式会社システム情報	5.02億円	841	独立系Sier。高取得率の国際PMPとCMMILレベル5をベースのプロジェクト管理力に強み。
システムズ・デザイン株式会社	3.33億円	368	企業向けシステム開発と業務のアウトソーシングを提供。デジタル技術も適用LDXにより業務効率化を支援。
シンデン・ハイテックス株式会社	14.38億円	109	液晶や半導体などの電子部品販売を主軸とする専門商社。サプライチェーン・マネジメントが強み。
テクノホライゾン株式会社	25億円	1,069	「映像&IT」と「ロボティクス」を用い、教育、安全・生活、医療、FA(工場自動化)市場でグローバルに事業展開。
株式会社トプコン	166.80億円	4,955	建設機械や農機の自動運転、眼疾患の早期発見をDXソリューションで展開するグローバル企業。
不二ラテックス株式会社	6.43億円	284	ゴム製品及び産業機械向け緩衝器等の製造・販売。

■ 卒業生が役員を務めている上場企業

(株)アイ・オー・データ機器/旭有機材(株)/(株)アドバネクス/(株)アドバンテスト/アンリツ(株)/(株)内田洋行/(株)オーネックス/亀田製菓(株)/(株)関電工/(株)九電工/栗田工業(株)/(株)コーエーテックモホールディングス/(株)駒井ハルテック/三協フロンテア(株)/(株)GA technologies/GMOフィナンシャルゲート(株)/(株)システム情報/システムズ・デザイン(株)/新光商事(株)/シンデン・ハイテックス(株)/スタンレー電気(株)/住友電設(株)/高見沢サイバネティクス/(株)タチエス/(株)チノー/(株)DTS/帝国繊維(株)/帝国通信工業(株)/テクノホライゾン(株)/東京応化工業(株)/(株)東京衝機/(株)ドウシヤ/(株)トプコン/富士ソフト(株)/ナガイレーベン(株)/日本金属(株)/日本精機(株)/日本テクノ・ラボ(株)/(株)ハーモニック・ドライブ・システムズ/ピー・シー・イー(株)/(株)福島銀行/不二ラテックス(株)/古林紙工(株)/(株)プロンコビリー/豊和工業(株)/(株)Macbee Planet/(株)マースグループホールディングス/マブチモーター(株)/ミサワホーム中国(株)/油研工業(株)/(株)理経/リョービ(株)/(株)レントラックス

出典:『東洋経済別冊 役員四季報2021年度版』

■ 著名な卒業生など 敬称略。ほかにも多くの著名な卒業生がいます。

- 横河 一郎** 横河電機(株)の創業者のひとり。大正時代に欧米を視察し、電気計測器の国産化に成功。同社製の実演装置等を保管。同社は工業計器首位。制御機器と計測器が2本柱。
- 内田 鐵衛** (株)コロナの創業者。日本初の軽油を燃料とした「加圧式液体燃料コンロ」の開発に成功し実用化。同社は石油暖房機器、空調、温水機器が主力。
- 高橋 勲次郎** 日本電子(株)創業者で電子顕微鏡の実用化に成功。同社は世界最高の分解能を誇る電子顕微鏡で、世界シェアが高い。
- 福田 孝** フクダ電子(株)の創業者。国産心電計の開発に成功。同社は医用電子機器メーカーとして循環器系に強く、心電計でトップ。千葉ニュータウンキャンパス福田記念国際交流センターを寄贈。
- 櫻尾 俊雄** カシオ計算機(株)創業の櫻尾4兄弟のひとり。世界初の小型純電気式計算機「14-A」、電卓、時計、電子楽器など発明品は多数。同社は電波時計、電子辞書で高シェア。東京千住キャンパスに同氏を顕彰したカシオホールがある。(※本学名誉博士)
- 手島 透** 当時、世界最高輝度の液相式高輝度赤色LEDを開発・実用化し、LED産業発展の基礎を築く。スタンレー電気(株)技術研究所長、代表取締役を歴任。紫綬褒章受章。(※本学名誉博士)
- スーハール** インドネシア共和国国家イノベーション委員会会長、アル・アズハレインドネシア大学学長を経て、インドネシア政府要職を歴任。旭日重光章受章。(※本学名誉博士)
- 新田 次郎** 直木賞作家、気象学者、気象庁に勤務しながら本学を卒業。「強力伝」で直木賞。自らの体験に根ざした「富士山頂」や「聖職の碑」などの山岳小説で有名。紫綬褒章受章。
- 熊谷 達也** 直木賞作家。東北や北海道の民俗、文化、風土に根ざした小説「邂逅の森」で、山本周五郎賞と直木賞をダブル受賞。「漂泊の牙」で新田次郎文学賞。
- 円谷 英二** 特技映画監督。円谷プロダクション創設者。ウルトラマンやゴジラなど、昭和の特殊撮影技術の第一人者で、特撮の神様と称される。(電機学校在籍)
- 飯島 勲** 元小泉内閣総理大臣首席秘書官。21世紀政策研究所(経団連)顧問、安倍内閣 内閣参与。旭日重光章受章。
- 田村 信一** 元日本テレビ放送網(株)取締役専務執行役員。テレビ放送デジタル化を推進。第62回前島密賞。
- 鯉沼 久史** (株)コーエーテックモホールディングス代表取締役副社長兼(株)コーエーテックモゲームス代表取締役社長。プログラマーを経て、「戦国無双」シリーズや「進撃の巨人」などコラボレーション作品を多数担当。
- 重見 聡史** (株)本田技術研究所上席研究員。(株)本田技研工業に入社し、本田技術研究所でロボット研究に従事。運動能力に優れた最先端ロボット開発のリーダーとしてASIMOを誕生させた。
- 鮎川 勝** 南極あすか基地初代越冬隊長、元・南極観測センター長。国立極地研究所名誉教授。専門は極地設置工学。
- 西角 友宏** タイター時代に「スペースインベーダー」を開発し、大ブームを起こした。元・ドリームス代表取締役、現・タイター・アドバイザー。
- 太田順也(ZUN)** ゲームクリエイター。「東方Project」の原作者。東方Projectは巨大コンテンツに成長。同人サークル「上海アリス幻楽団」運営。



櫻尾 俊雄
写真提供:カシオ計算機株式会社



代表作品
写真提供:株式会社コーエーテックモゲームス

社会に貢献する東京電機大学

● 丹羽保次郎記念論文賞

日本の十大発明家に数えられる初代学長故丹羽保次郎博士の電気通信技術に対する功績を記念し、大学院生等を対象に1977(昭和52)年に設立されました。2020(令和2)年度は8件の推薦応募があり、審査の結果、次の2名の方が受賞されました。(所属等は受賞時)

柯 夢南氏(東京理科大学 工学部電気工学科 助教)
受賞対象論文「Reduction of Slow Trap Density in Al₂O₃/GeOxNy/n-Ge MOS Interfaces by PPN-PPO Process」IEEE Transactions on Electron Devices(2019年12月・Vol.66.No.12)

溝口 毅彦氏(NEC Laboratories America, Inc.)
受賞対象論文「Hypercomplex Tensor Completion via Convex Optimization」IEEE Transactions on Signal Processing(2019年8月・Vol.67.No.15)

● マスコミで注目された教職員

- 安田 進 名誉教授**(元理工学部 建築・都市環境学系教授) 災害による水害被害や土砂災害についてテレビ・新聞で解説やコメント。
- 寿楽 浩太 教授**(工学部人間科学系) 原子力に関わる問題に詳しい専門家としてテレビ・新聞で解説やコメント。
- 山本 宏樹 准教授**(理工学部 共通教育群) 体罰問題、不登校やいじめなどについてテレビ・ラジオ・新聞等で解説やコメント。

● 東京電機大学出版局の活動紹介

教科書、技術書、学術書、啓発書や文部科学省教科書など多くの出版物を刊行し、社会から高い評価を得ています。2020(令和2)年度はコロナ禍の影響により、例年よりも新刊点数が減少しましたが、「理工系大学でどう学ぶ?」「エンジン工学」「ためしながら学ぶC言語」「AIリテラシーの教科書」「ヒトの耳 機械の耳」など13点の新刊書籍、重版62点を刊行しました。日本書籍出版協会、大学出版部協会、工学書協会、日本出版学会等に所属。



● 教育・研究の公開

教育の公開や社会貢献などを行っています。

講演会、公開講座等

- 「TDU生涯学習講座 オンライン版」
- 「サイバーセキュリティシンポジウム in TDU 2021」
- 「医療機器国際展開技術者育成講座」
- 「第44回ME講座」
- 「CRCフォーラム」

「科学・ものづくり体験教室」



カメラオプスキュラを作って光のフシギに迫ろう!



ペットボトルの船を作ろう!

(教職員が役員の企業 2021年4月現在)

● 大学発ベンチャー紹介

会社名	概要
ネプラス(株)	設立年月: 2000(平成12)年5月 業務概要: 高速高精度3次元位置測定システム等の開発、販売等 本学関係者: 代表取締役: 新津 靖 教授(システムデザイン工学部情報システム工学科)
日本バイオリファイナリー(株)	設立年月: 2019(平成31)年1月 業務概要: 再生可能資源(バイオマス)を原料とした製品の製造技術開発、製品開発、輸出入及び国内販売 本学関係者: 発起人: 椎葉 究 教授(理工学部生命科学系)

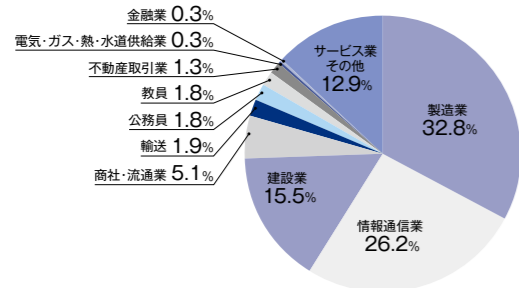
就職実績

●就職内定率

97.7%

2021年3月卒業生、修了生の就職内定実績。民間企業への就職希望者1,613名に対して、1,576名が内定を獲得しました。

●産業別就職割合



●求人社数

14,902社

本学の学生一人あたりの求人件数は約9社。(全国平均は1.53社：リクルートワークス研究所調べ)

●希望企業への内定獲得率

93.0%

2021年3月卒業生アンケートで就職内定先企業が、希望順位の第3位までの割合。第1位と回答した学生も64%にのびります。

●就職先企業の満足度

98.0%

2021年3月卒業生アンケートで就職内定先企業を「大変満足」「満足」と答えた学生の割合。

●学内企業説明会参加企業数 (2020年3月～2021年3月に開催)

599社

就職活動の時期に電大生のために会社説明会に参加する企業数。

●卒業生による仕事研究セミナー参加企業数 [キャリア教育行事]

299社

2020年度は卒業生が活躍する企業299社がオンラインで参加し、卒業生が親身になって相談ののびてくれました。

●キャリア支援・就職支援講座 (2020年度)

188回

学部1年生から参加できる講座など、2キャンパスで毎週1つ以上の講座を開講しています。

●過去5年間の主な内定企業実績一覧 (2017年3月～2021年3月卒業生、修了生実績)

三菱電機	69	本田技研工業(ホンダ)	32
東日本旅客鉄道(JR東日本)	58	大和ハウス工業	32
凸版印刷	41	スズキ	29
日本電気(NEC)	41	富士通	29
富士電機	35	沖電気工業	28
SUBARU	28	NECソリューションイノベータ	24
大成建設	27	東京電力ホールディングス	23
日立製作所	25	アズビル	22
パイオニア	24	ミネベアミツミ	21
NECフィールディング	24	東海旅客鉄道(JR東海)	20
関電工	24	積水ハウス	19
		NTTデータ	12
		アルプスアルパイン	18
		いすゞ自動車	15
		ヤフー	14
		トヨタ自動車	14
		キャノン	12
		NTTデータ	12

●主要内定実績企業一覧 (2021年3月卒業生、修了生実績)

三菱電機	18	富士電機	9
本田技研工業(ホンダ)	11	日立製作所	8
凸版印刷	10	NECソリューションイノベータ	8
日本電気(NEC)	9	SUBARU	7
東日本旅客鉄道(JR東日本)	9	大成建設	7
アルプスアルパイン	7	いすゞ自動車	5
鹿島建設	6	住友林業	4
沖電気工業	6	東海旅客鉄道(JR東海)	4
積水ハウス	5	スズキ	4
アルファシステムズ	5	KDDI	3
東京電力	5	ミネベアミツミ	3
		京セラ	3
		安川電機	3
		清水建設	3
		大和ハウス工業	3
		ヤマハ発動機	3
		富士通	3
		京セラ	3

卒業生が企業等で作っている「電機会」

1 教職校友会	1,208	7 関電工電機会	165
2 東京電機大学技術士会	409	8 東管支部	142
3 民間放送校友会	293	9 鹿島建設電機会	123
4 三菱電機会	281	10 大成建設電機会	111
5 錦央電機会	184	11 明電舎電機会	99
6 沖電気電機会	166	12 京三電機会	78

※他に多くの企業内電機会があります。数字は会員数。

IHI、アクセンチュア、旭化成、アサヒビール、アドバンテスト、アマダ、アルプスアルパイン、アルファシステムズ、安藤・間、インテック、AGC、SCSK、NTTドコモ、荏原製作所、大塚商会、大林組、オムロン、オリエンタルランド、オリンパス、鹿島建設、京セラ、クラレ、KDDI、コナミデジタルエンタテインメント、小松製作所、サイバーエージェント、JVCケンウッド、資生堂、シャープ、住友林業、セイコーエプソン、セガ、全日本空輸(全日空)、ソニー、ソフトバンク、ダイキン工業、大日本印刷、ダイハツ工業、太陽誘電、DeNA、TDK、THK、テルモ、テレビ朝日、デンソー、東急、東京エレクトロン、東京ガス、東京電力、東芝、西松建設、日産自動車、日清紡、日本コムシス、日本精工、日本電産、任天堂、パナソニック、パンダインコム、東日本電信電話(NTT東日本)、日野自動車、富士通エフサス、富士通ゼネラル、マツダ、三菱ケミカル、三菱自動車工業、村田製作所、明電舎、安川電機、ヤフー、ヤマハ発動機、横浜ゴム、LIXIL、ローム

安藤・間、インターネットイニシアティブ、インテック、SCSK、NSD、NTTアドバンステクノロジ、NTTデータ、大塚商会、大林組、オカムラ、オリエンタルランド、オリンパス、カシオ計算機、カプコン、関電工、キャノン、キャノンメディカルシステムズ、クリナップ、京成電鉄、コア、コナミデジタルエンタテインメント、小松製作所、サイバーエージェント、山九、シーエーシー、GMOインターネット、JTB情報システム、資生堂、シャープ、信越化学工業、スクウェア・エニックス、スタンレー電気、住友不動産、セガ、全日本空輸(全日空)、総合警備保障、ソニー、ソフトバンク、大京、大日本印刷、太平洋セメント、太陽誘電、タカラスタンダード、竹中工務店、千代田化工建設、DeNA、THK、東京エレクトロン、東京地下鉄(東京メトロ)、東洋製罐、TOKAIグループ、戸田建設、トヨタ自動車、西日本旅客鉄道(JR西日本)、西松建設、日産自動車、日清紡、日本精工、日本電産、日本HP、日本ユニシス、長谷工コーポレーション、パナソニック、パンダインコム、日立Astemo、日立建機、日立システムズ、日立ソリューションズ、日野自動車、フジクラ、富士通エフサス、富士通ゼネラル、ボラス、マツダ、マルハニチロ、ミサワホーム、三井住友海上火災保険、三菱ケミカル、三菱マテリアル、明電舎、ヤフー、山崎製パン、横河電機、横浜ゴム、レンゴー、YKKAP

13 東光電気工事電機会	64	19 アズビル電機会	40
14 竹中電機会	57	20 東管神奈川電機会	32
14 長谷工電機会	57	20 東亜ディーケーケー電機会	32
16 商工懇話会	52	20 フジクラ電機会	32
17 特許電機会	48	23 九電工電機会	30
18 日本電波工業電機会	44	23 三菱プレジジョン電機会	30

(2021年5月現在)

データ集

●資産

キャンパス総面積	698,665.41㎡
東京千住キャンパス	26,221.39㎡
埼玉鳩山キャンパス	348,469.68㎡
千葉ニュータウンキャンパス	205,058.00㎡
東京小金井キャンパス	22,023.48㎡
東京千住キャンパス千住東グラウンド	7,918.86㎡
平岡総合グラウンド	88,974.00㎡
図書蔵書数	217,932冊 雑誌等 約9,550タイトル
学生用図書	202,578冊
研究用図書	15,354冊
雑誌	2,080タイトル
電子ジャーナル	約7,470タイトル
電子ブック	約60,000タイトル
コンピュータ台数	ネットワーク接続: 約8,700台

●学生・生徒数(人)

大学	9,913 (1,294/13%)	※()内は女性で内数。%は割合
先端科学技術研究科(博士)	42 (9)	
工学研究科(修士)	355 (29)	
理工学研究科(修士)	223 (43)	
情報環境学研究科(修士)	34 (4)	
未来科学研究科(修士)	266 (53)	
システムデザイン工学研究科(修士)	42 (10)	
工学部	2,724 (230)	
工学部第二部	788 (54)	
理工学部	2,753 (366)	
情報環境学部	8 (0)	
未来科学部	1,589 (312)	
システムデザイン工学部	1,089 (184)	
高等学校	783 (214/27%)	
中学校	470 (139/30%)	

●定員 (2021年4月1日現在)

大学院	入学定員	収容定員
工学研究科(修士)		
電気電子工学専攻	35	70
電子システム工学専攻	25	50
物質工学専攻	25	50
機械工学専攻	30	60
先端機械工学専攻	25	50
情報通信工学専攻	30	60
	170	340
理工学研究科(修士)		
理学専攻	15	30
生命理工学専攻	25	50
情報学専攻	34	68
機械工学専攻	18	36
電子工学専攻	18	36
建築・都市環境学専攻	12	24
	122	244
未来科学研究科(修士)		
建築学専攻	60	120
情報メディア学専攻	35	70
ロボット・メカトロニクス学専攻	45	90
	140	280
システムデザイン工学研究科(修士)		
情報システム工学専攻	35	70
デザイン工学専攻	25	50
	60	120
先端科学技術研究科(博士)		
数理学専攻	2	6
電気電子システム工学専攻	3	9
情報通信メディア工学専攻	3	9
機械システム工学専攻	3	9
建築・建設環境工学専攻	3	9
物質生命理工学専攻	3	9
先端技術創成専攻	3	9
情報学専攻	2	6
	22	66
大学院計	修士 492	984
	博士 22	66
	合計 514	1,050

●卒業生数(人)

228,107(住所判明者:92,604 校友会正会員数:25,942)

●修了者・卒業生数(2020年度)

		昼	夜	合計
大学院	先端科学技術研究科 博士課程(後期)	10 ※(1)	—	10
	工学研究科 修士課程	150	—	150
	理工学研究科 修士課程	126	—	126
	情報環境学研究科 修士課程	21	—	21
大学	未来科学研究科 修士課程	137	—	137
	工学部	639 ※(2)	—	639
学部	工学部第二部	—	134 ※(3)	134
	理工学部	630 ※(4)	—	630
	情報環境学部	18 ※(5)	—	18
	未来科学部	365 ※(6)	—	365
	システムデザイン工学部	228	—	228
	高等学校	270	—	270
中学校	147	—	147	
合計	2,513	134	2,647	

※(1)2020年9月修了者1名含む。
 ※(2)2020年9月卒業生6名、3年の修学による早期卒業生2名を含む。
 ※(3)2020年9月卒業生7名を含む。
 ※(4)2020年9月卒業生2名、3年の修学による早期卒業生1名を含む。
 ※(5)2020年8月卒業生8名を含む。
 ※(6)2020年9月卒業生1名、3年の修学による早期卒業生1名、3.5年の修学による早期卒業生1名を含む。

大学	入学定員	収容定員
工学部		
電気電子工学科	120	480
電子システム工学科	90	360
応用化学科	80	320
機械工学科	110	440
先端機械工学科	100	400
情報通信工学科	110	440
	610	2,440
理工学部 理工学科	600	2,400
理学系		
生命科学系		
情報システムデザイン学系		
機械工学系		
電子工学系		
建築・都市環境学系		
未来科学部		
建築学科	130	520
情報メディア学科	110	440
ロボット・メカトロニクス学科	110	440
	350	1,400
システムデザイン工学部		
情報システム工学科	130	520
デザイン工学科	110	440
	240	960
工学部第二部		
電気電子工学科	60	240
機械工学科	60	240
情報通信工学科	60	240
	180	720
大学計	昼間 1,800	7,200
	夜間 180	720
	合計 1,980	7,920
高等学校・中学校		
高等学校	250	750
中学校	150	450

●役員・従事員数 (2021年5月1日現在)

理事	監事	評議員	顧問	学資	参与
14	2	47	3	17	34

専従者 (人)

	教員職員	教育嘱託	任期付教員	特別専任教授	事務職員	事務嘱託	技術職員	技術嘱託	計
法人	0	0	0	0	35	1	1	1	38
大学	234	29	70	10	115	12	7	1	478
高等学校	36	3	1	0	4	0	0	0	44
中学校	22	1	1	0	1	2	0	0	27
小計	292	33	72	10	155	15	8	2	587

事業本部	0	0	0	0	5	0	0	0	5
校友会	0	0	0	0	3	0	0	0	3
合計	292	33	72	10	163	15	8	2	595

●学生募集状況

学部志願者数 (一般選抜・共通テスト) (人)

学部	2019年度	2020年度	2021年度
工学部	9,977	10,953	10,713
工学部第二部	1,120	935	899
理工学部	6,565	6,522	6,670
情報環境学部			
未来科学部	6,131	6,428	5,908
システムデザイン工学部	4,428	4,475	5,136
合計	28,221	29,313	29,326

●進路状況 (2020年度修了者・卒業者)

大学

- (1) 求人申込企業数 14,902社
- (2) 求人数 190,213人
- (3) 就職希望登録者及び決定者数

		内訳	登録者数	決定者数	内定率
大学院	工学部	工学研究科 修士課程	146人	146人	100.0%
		理工学研究科 修士課程	115人	114人	99.1%
		情報環境学研究科 修士課程	20人	20人	100.0%
		未来科学研究科 修士課程	131人	128人	97.7%
		合計	412人	408人	99.0%
学部	工学部	工学部	408人	403人	98.8%
		工学部第二部	76人	72人	94.7%
		理工学部	412人	396人	96.1%
		情報環境学部	8人	8人	100.0%
		未来科学部	202人	195人	96.5%
システムデザイン工学部	171人	166人	97.1%		
合計		1,689人	1,648人	97.6%	

学生職員・補助職員 (人)

	法人	大学	中・高	事業本部	校友会	計
学生職員	0	55	0	0	0	55
補助職員	1	39	7	1	2	50
合計	1	94	7	1	2	105

外来教員 (人)

	大学	高校	中学	計
非常勤教員	528	38	27	593

業務委託・人材派遣 (人)

	法人	大学	中・高	事業本部	校友会	計
業務委託・人材派遣	17	97	2	6	3	125

入試コーディネーター等労働契約者 (人)

	法人	大学	中・高	事業本部	校友会	計
週5日以上勤務者	0	14	1	1	0	16

大学院志願者数 (人)

研究科	2019年度	2020年度	2021年度
先端科学技術研究科	10	14	15
未来科学研究科	163	144	154
工学研究科	175	178	228
理工学研究科	150	112	152
情報環境学研究科	24	38	
システムデザイン工学研究科			53
合計	522	486	602

※大学院志願者数には、9月入学者を含む。

- (4) 規模別就職者数
 - 大企業 (資本金10億円以上) 860人
 - 中企業 (資本金1億円~10億円未満) 439人
 - 小企業 (資本金1億円未満) 349人
- (5) 大学院進学状況

	工学部	人数
本学大学院進学者	工学部	172人
	工学部第二部	11人
	理工学部	122人
	システムデザイン工学部	39人
	未来科学部	128人
他大学院進学者	工学部	11人
	工学部第二部	0人
	理工学部	16人
	システムデザイン工学部	5人
	未来科学部	4人

※上記には、早期卒業による本学大学院進学者を含む。

●寄付状況 (2020年度学校法人東京電機大学サポート募金) [期間 2020年4月1日~2021年3月31日]

学校法人東京電機大学サポート募金

使途指定	在校生ご父母	卒業生(関係団体含む)	役員・教職員(元教職員含む)	法人	一般賛同者	合計
奨学金	83件	519件	56件	18件	20件	696件
	4,294,500円	29,932,700円	7,830,000円	11,941,000円	287,720円	54,285,920円
施設・設備	203件	46件	8件	13件	9件	279件
	2,317,830円	1,608,100円	365,867円	3,291,000円	610,401円	8,193,198円
課外活動	75件	48件	15件	2件	7件	147件
	695,000円	1,629,700円	557,000円	501,000円	150,200円	3,532,900円
その他・指定なし	71件	229件	38件	19件	6件	363件
	1,139,415円	3,089,334円	5,451,083円	6,220,000円	1,215,000円	17,114,832円
合計	432件	842件	117件	52件	42件	1,485件
	8,446,745円	36,259,834円	14,203,950円	21,953,000円	2,263,321円	83,126,850円

現物寄付

寄贈品	寄贈先キャンパス
フェイスシールド 13,000セット	東京千住キャンパス/埼玉鳩山キャンパス/東京小金井キャンパス

●1年次学費一覧

2021年度

科目/研究科		先端科学技術研究科	未来科学研究科 (建築学専攻)	システムデザイン工学研究科/ 未来科学研究科(建築学専攻以外)/ 工学研究科	理工学研究科	工学研究科 (社会人コース)
	授業料	505,000	630,000	505,000	505,000	336,650
	教育充実費	—	5,000	5,000	—	3,350
受託諸会費 (前期のみ)	校友会費積立金	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000
	学研災	2,600	1,750	1,750	1,750	2,600
	学研賠	1,020	680	680	680	1,020
	入学期(入学諸費用)	764,620	893,430	768,430	763,430	599,620
	後期	505,000	635,000	510,000	505,000	340,000
	合計(年額)	1,269,620	1,528,430	1,278,430	1,268,430	939,620

(単位:円)

科目/学部		未来科学部(建築学科)	システムデザイン工学部/ 未来科学部(建築学科以外)/ 工学部	理工学部	工学部第二部 ※学費単位従量制
	授業料	453,500	453,500	453,500	60,800
	履修単位従量額	—	—	—	(@13,400×履修単位数)
	実験実習料	95,500	75,000	75,000	—
	教育充実費	172,000	172,000	152,000	87,250
受託諸会費 (前期のみ)	後援会費	5,000	5,000	5,000	4,000
	自治会費	5,500	5,500	5,500	5,000
	自治会入会金	1,000	1,000	1,000	1,000
	校友会費積立金	6,000	6,000	6,000	6,000
	学研災	3,300	3,300	3,300	1,400
	学研賠	1,360	1,360	1,360	1,360
	入学期(入学諸費用)	993,160	972,660	952,660	296,810 + (@13,400×履修単位数)
	後期	721,000	700,500	680,500	148,050 + (@13,400×履修単位数)
	合計(年額)	1,714,160	1,673,160	1,633,160	444,860 + (@13,400×履修単位数)

(単位:円)